資料２

北海道縦貫自動車道（七飯藤城（ななえふじしろ）～七飯（ななえ））

第１回　説明資料

令和８年１１月６日

国土交通省　北海道開発局

目　　次

１．計画段階評価の検討の流れ
２．地域の概況
３．地域の状況と課題
４．道路の状況と課題
５．課題の整理
６．政策目標（案）の設定
７．意見聴取方法（案）

１．計画段階評価の検討の流れ

1-1） 計画段階評価手続きの進め方

〇地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画〔概略ルート、構造等〕について検討を行う。
〇本委員会は地域・道路の現状と課題及び意見聴取方法について議論。

今　回

北海道地方小委員会

【審議内容】
■地域・道路の現状と課題

■政策目標（案）の設定

■意見聴取方法

意見聴取（第1回）

〇地域・道路の課題

◆意見聴取方法（案）
〈ヒアリング〉
対象者
・沿線自治体等
・関係団体

〈アンケート〉
対象者
・地域住民
・道路利用者
・観光客

北海道地方小委員会

■政策目標の設定　等

■評価項目の設定　等

■比較ルート案（複数案）　等

■対応方針（案）（概略ルート、構造等）　等

意見聴取

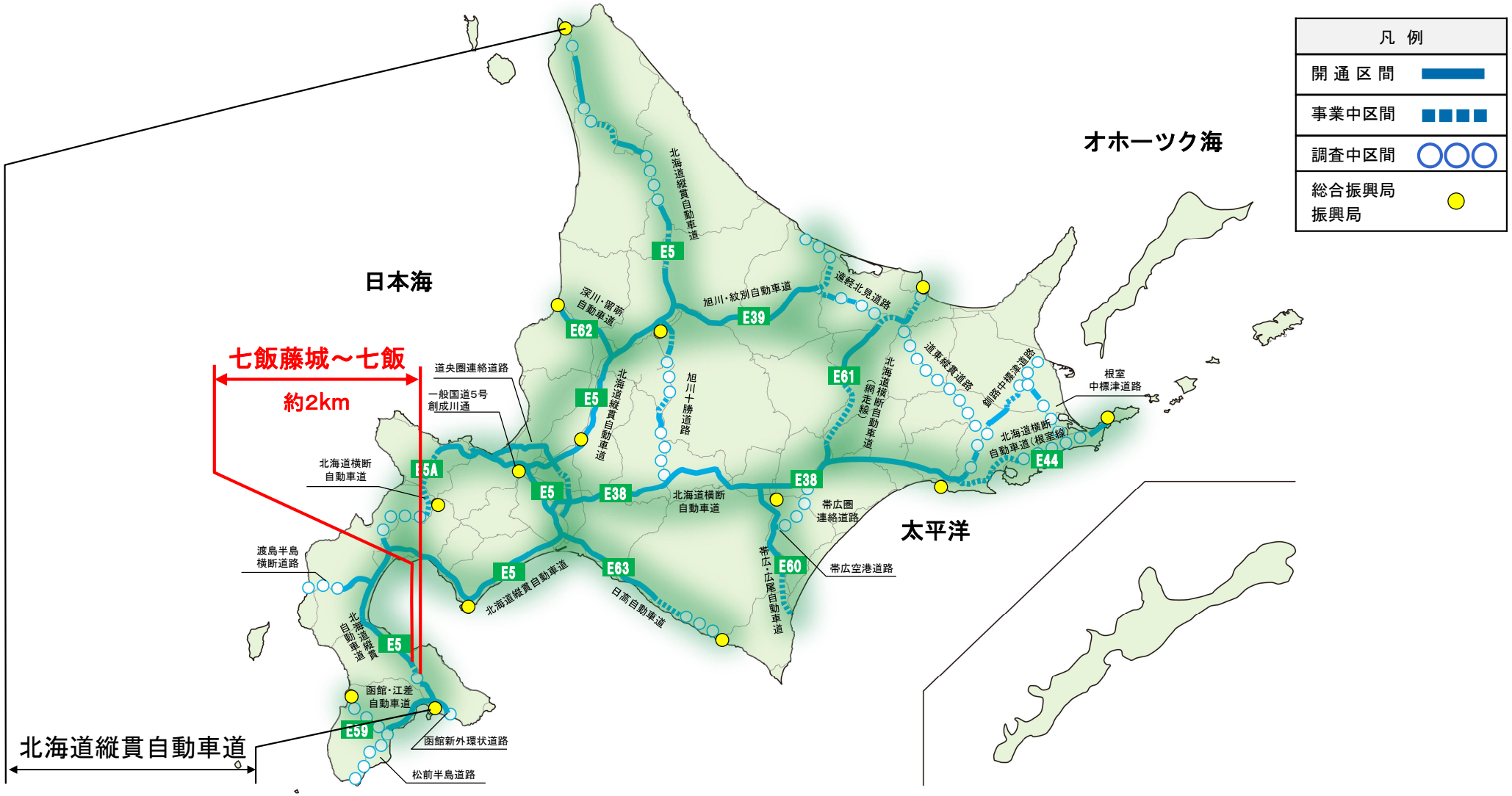
対応方針の決定（概略ルート・構造等）

北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

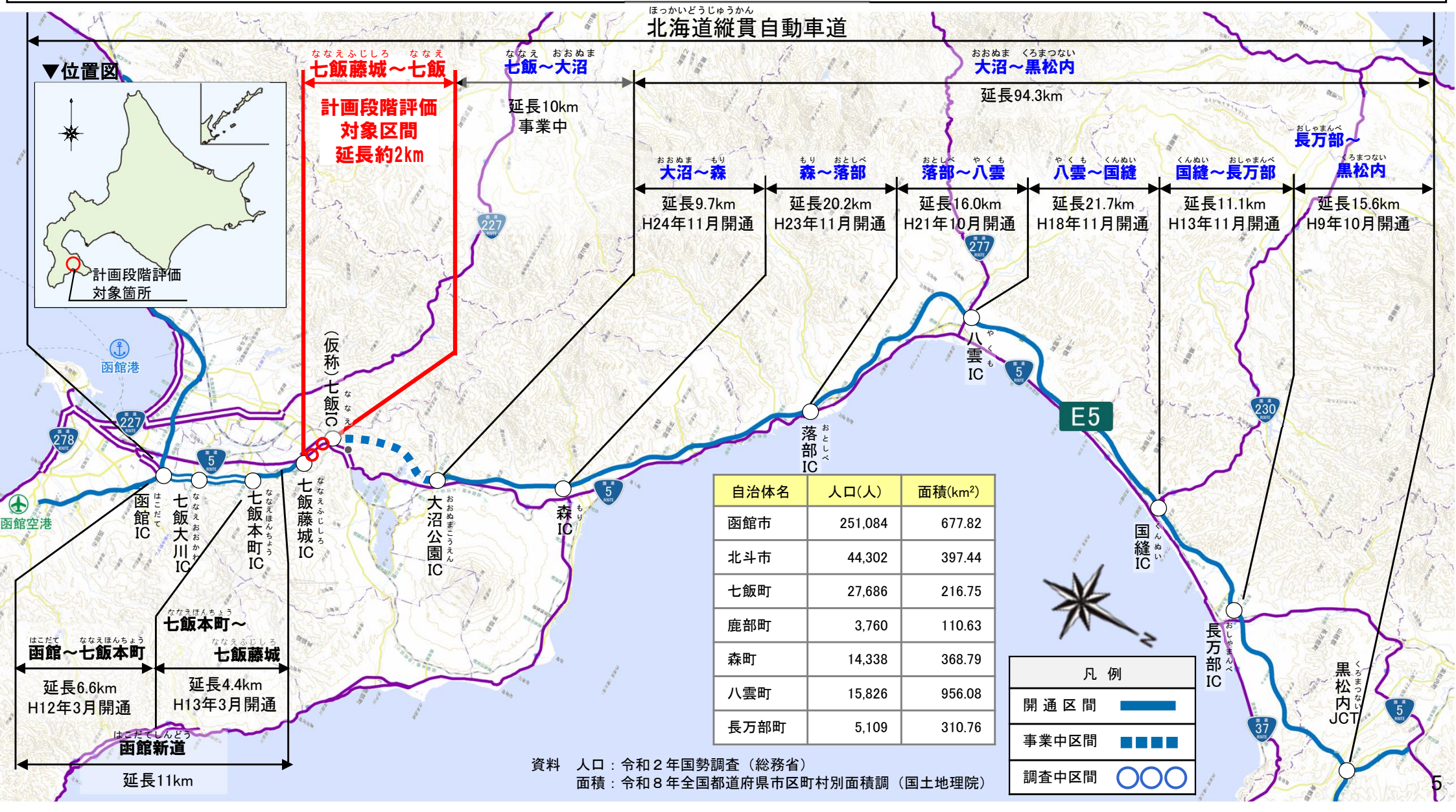
1-2）北海道の高規格道路網

○北海道縦貫自動車道は、函館市を起点として札幌市、旭川市等を経由し、稚内市へ至る高規格幹線道路で、評価対象区間はその一部。



1-3） 北海道縦貫自動車道の進捗

○北海道縦貫自動車道のうち函館～黒松内間では、函館～七飯藤城間および大沼～黒松内間が平成24年までに開通済み。
　七飯～大沼間が事業中。
○当該区間は、函館新道（開通済）と七飯～大沼（事業中）を結ぶ延長約2kmの区間。



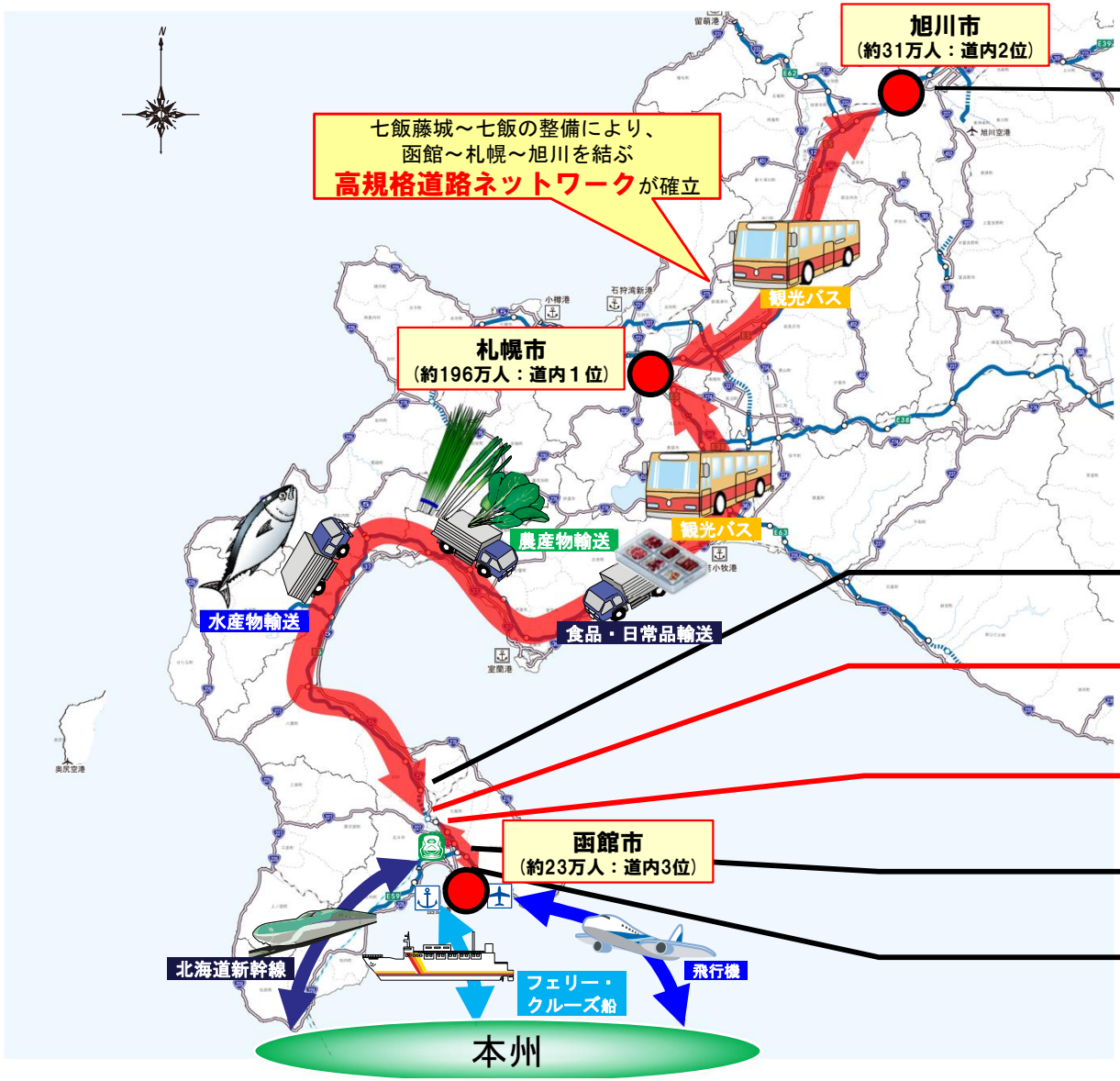
自治体名	人口(人)	面積(km²)
函館市	251,084	677.82
北斗市	44,302	397.44
七飯町	27,686	216.75
鹿部町	3,760	110.63
森町	14,338	368.79
八雲町	15,826	956.08
長万部町	5,109	310.76

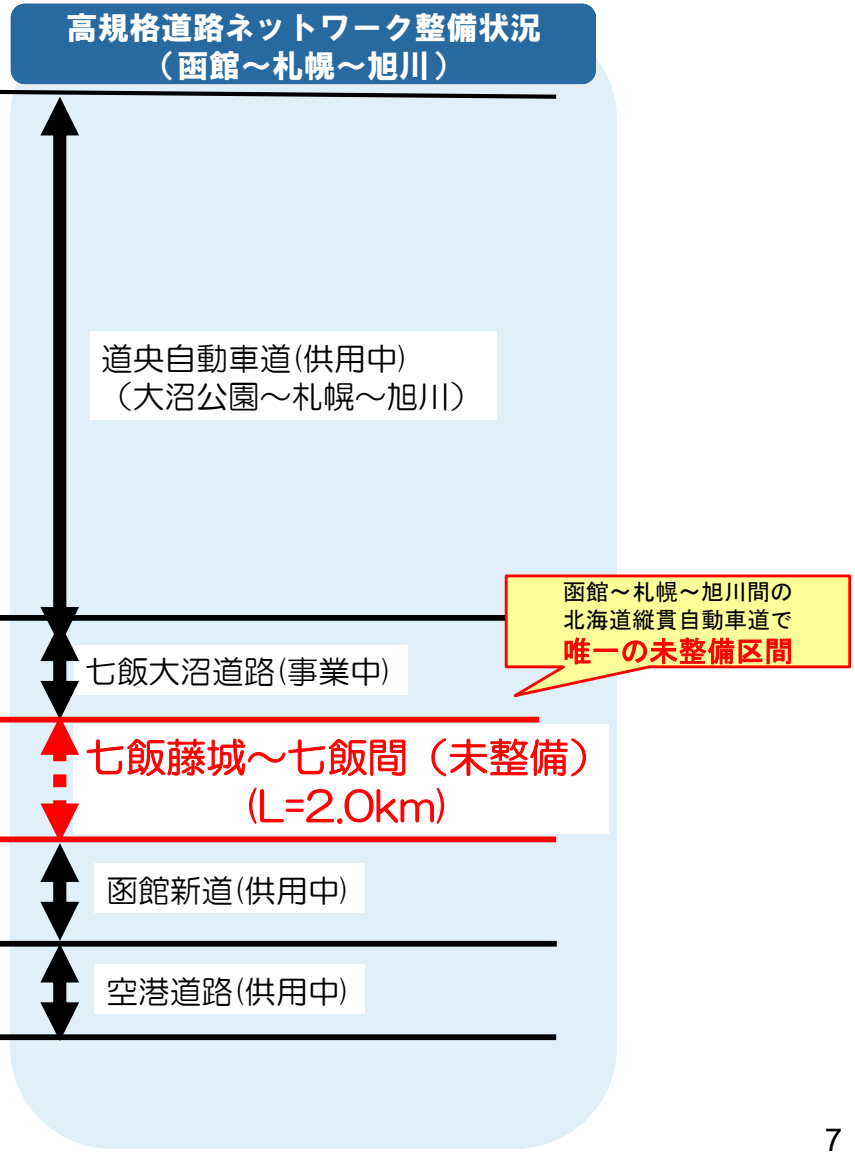
資料　人口：令和２年国勢調査（総務省）
　　面積：令和８年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

２．地域の概況

2-1） 地域の概況（道央圏とのつながり）

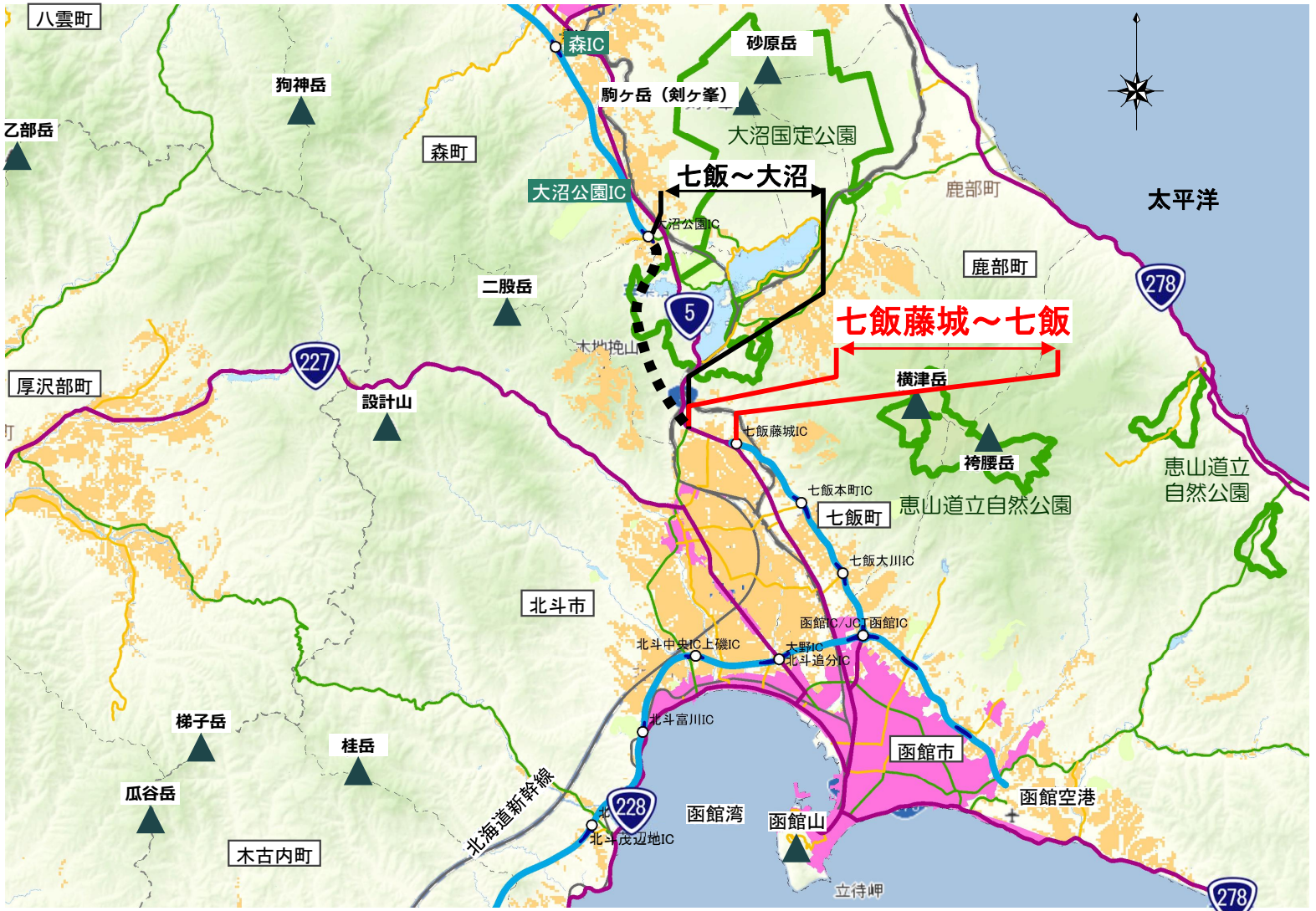
○七飯藤城～七飯間は、道内人口上位3都市である札幌、旭川、函館間を連絡し、道南の物流・観光を支える重要な道路。
○函館～旭川間の高規格道路ネットワークの中で、唯一未整備となっているのは、七飯藤城～七飯間のみ。





2-2） 地域の概況（土地利用）

○渡島地域は、太平洋、日本海に面し、国定公園や多くの道立自然公園を有する自然豊かな地域。
○七飯藤城～七飯間の国道5号沿線は農用地が分布。

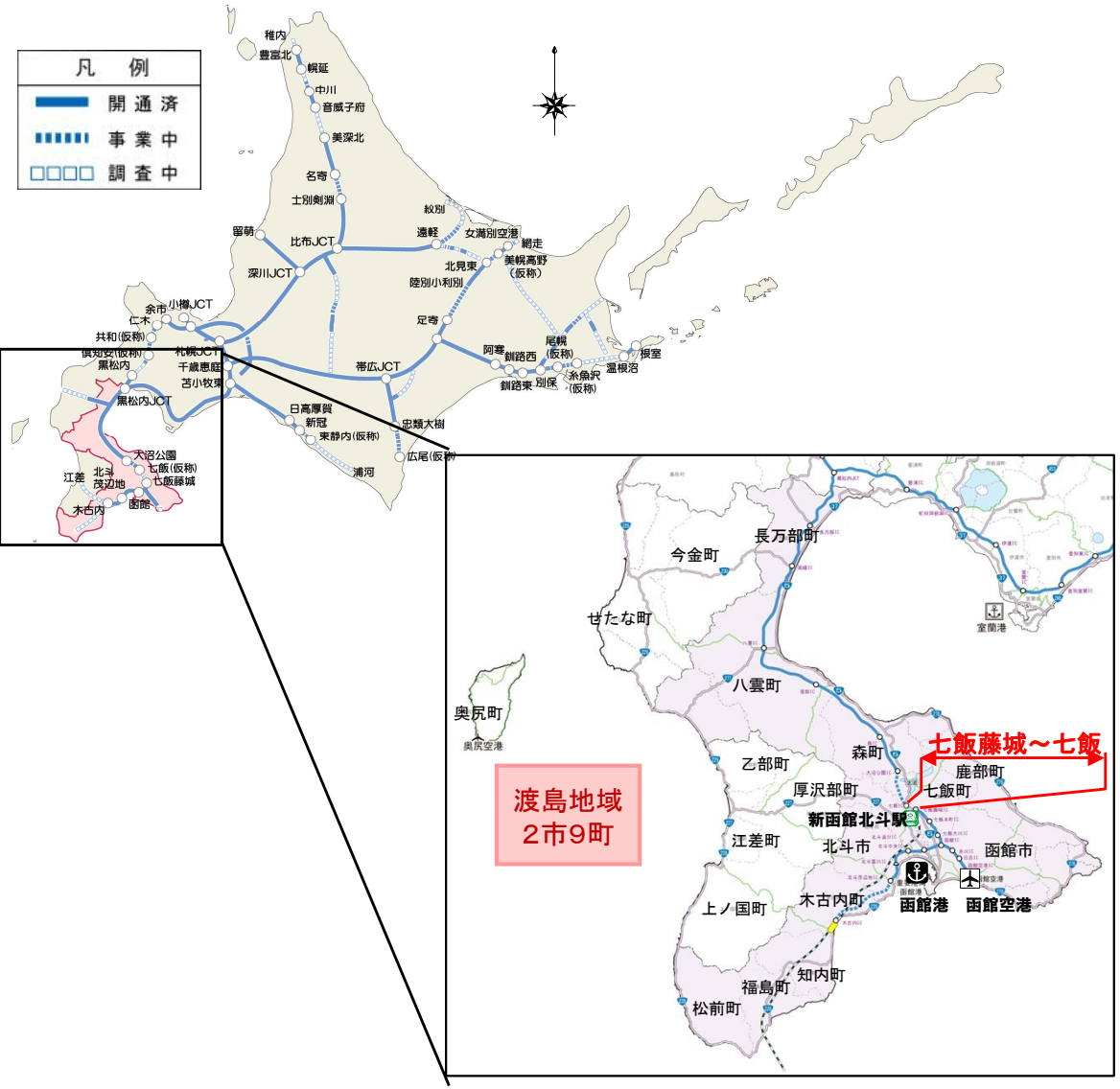


注：「市街地」は都市計画決定された工業専用地域を除く用途地域、「農用地」は湿田・乾田・沼田・蓮田及び田、麦・陸稲・野菜・草地・芝地・りんご、梨・桃・ブドウ・茶・桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培する土地、
「山地」は山地・丘陵または台地の緑などの傾斜地（国土交通省国土地理院地形分類より参照）
資料：「市街地」は「国土交通省国土政策局の国土数値情報（用途地域データ令和元年度）」をもとに加工　https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A29-v2_1.html
「農用地」は「国土交通省国土政策局の国土数値情報（土地利用細分メッシュデータ平成28年度）」をもとに編集・加工　https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-b.html

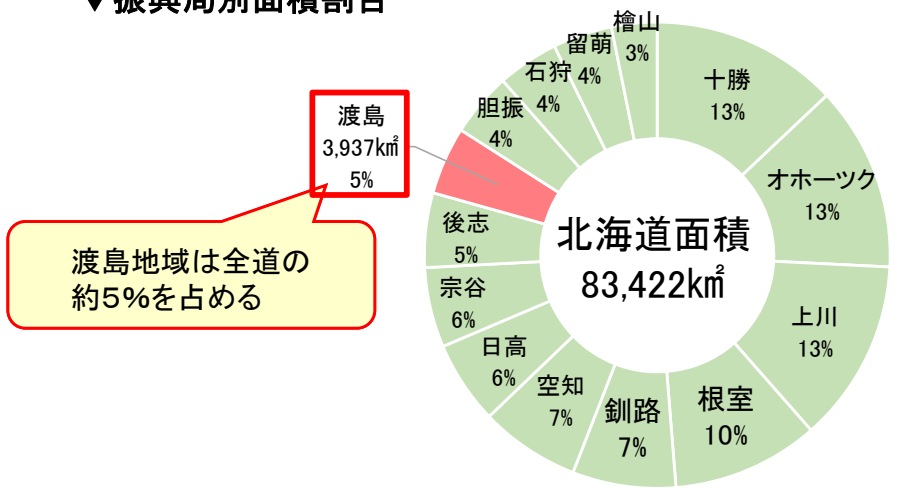
2-3） 地域の概況（面積）

○渡島地域は北海道の南西部に位置し、2市9町で構成され、重要港湾である函館港、国管理空港である函館空港、北海道新幹線の基点である新函館北斗駅を有する。
○総面積は全道の約5%（3,937 ㎢）を占め、滋賀県や埼玉県と同程度の面積。

▼高規格道路網図と渡島地域の市町村図

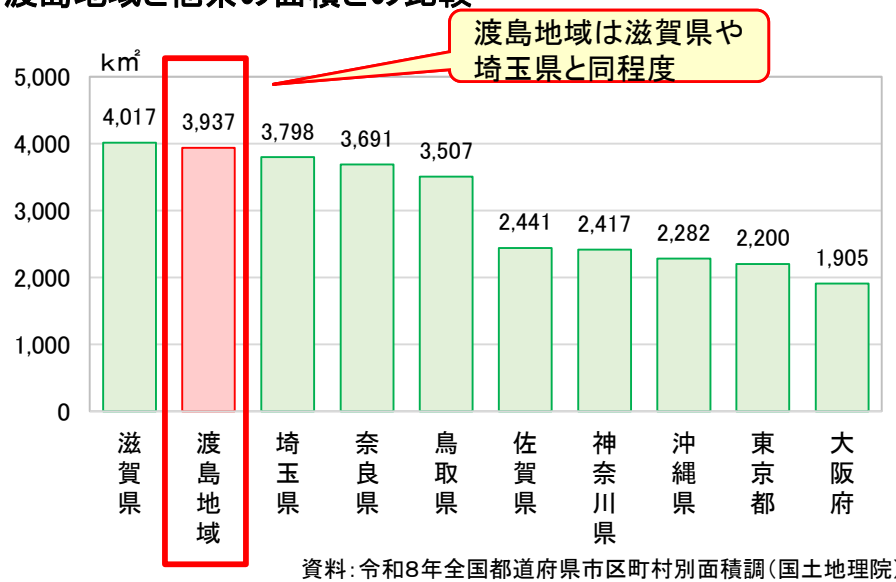


▼振興局別面積割合



資料：令和8年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

▼渡島地域と他県の面積との比較

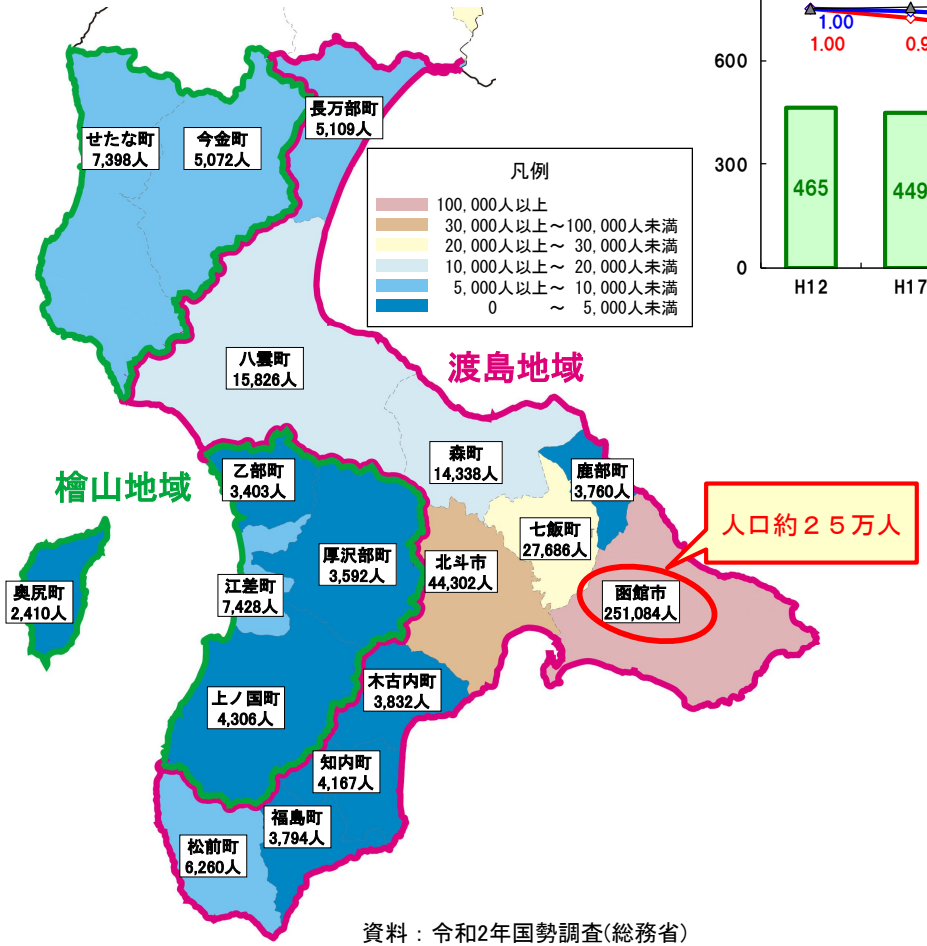


資料：令和8年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

2-4） 地域の概況（人口）

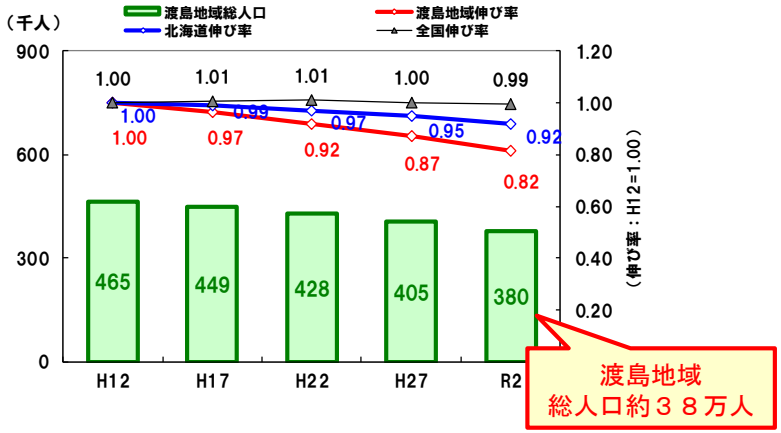
○渡島地域の総人口は約38万人で、そのうち函館市が約25万人と集中。
○渡島地域は、全国や全道と比較すると、人口減少・高齢化が先行。
○渡島地域の年齢別人口構成は、全国平均より高齢（60歳以上）人口割合が高く、特に20～40代の人口割合が低い状況。

▼渡島・檜山地域の市町村人口



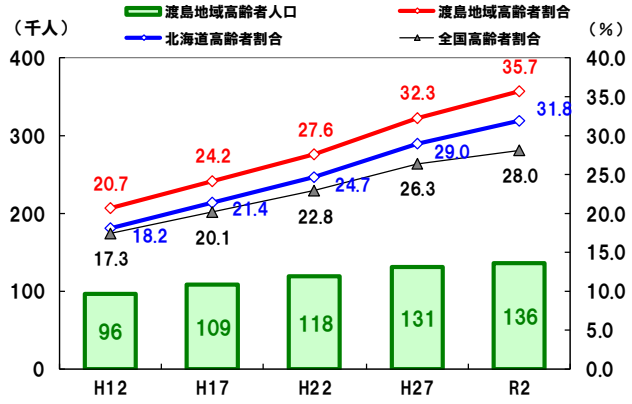
資料：令和2年国勢調査(総務省)

▼総人口の推移



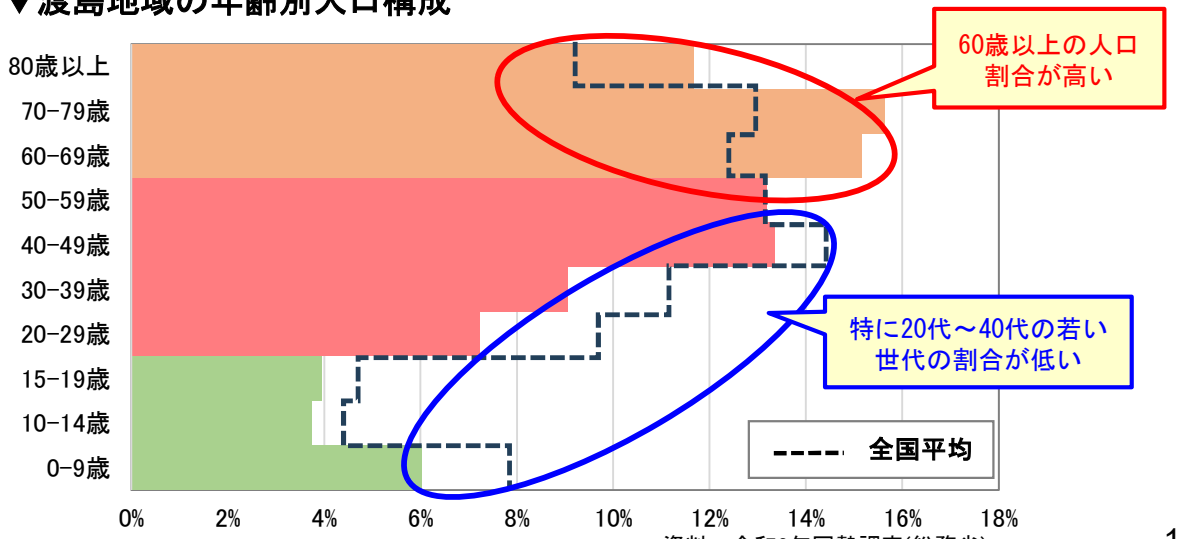
資料： 国勢調査（総務省）

▼高齢者人口の推移



資料： 国勢調査（総務省）

▼渡島地域の年齢別人口構成

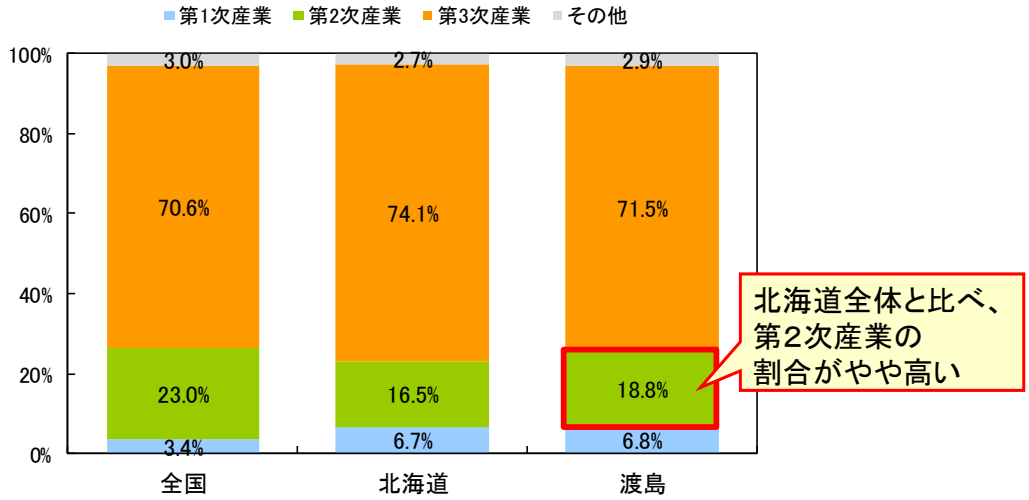


資料：令和2年国勢調査(総務省)

2-5） 地域の概況（産業）

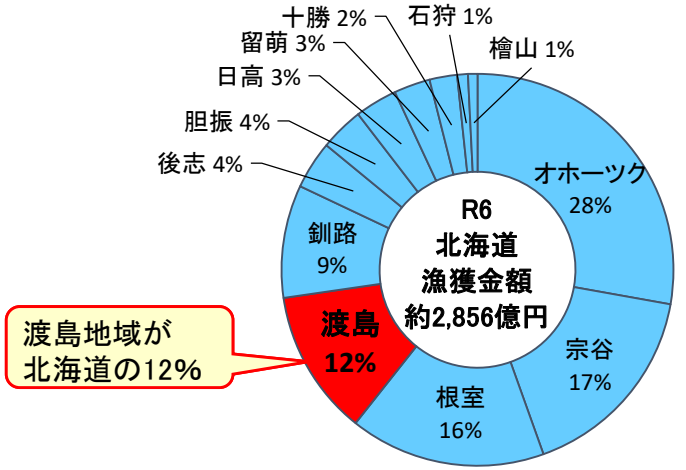
○渡島地域の産業は、北海道全体と比べ、第２次産業の割合がやや高く、分野別就業人口の特化の度合いでは、北海道平均と比べて製造業が高い。
○渡島地域は、日本の食糧基地・北海道における漁業生産額の12%、農業生産額の３%を占める。

▼渡島地域の就業人口割合



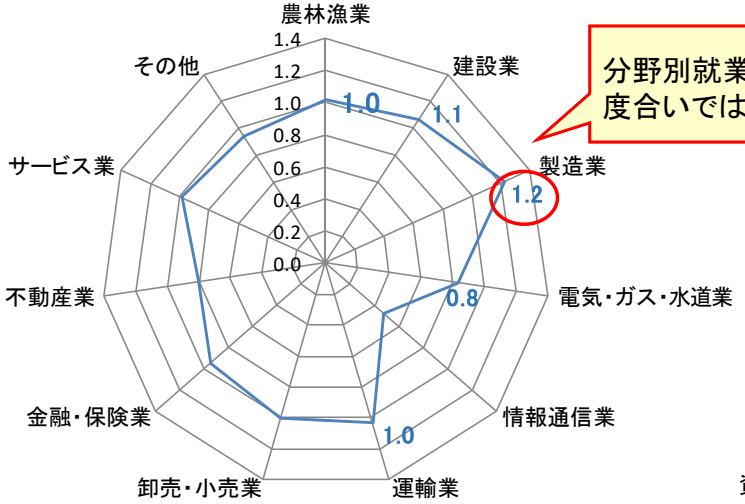
資料：令和2年国勢調査(総務省)

▼北海道の漁業生産額割合



資料：令和6年北海道水産現勢（北海道）

▼渡島地域の分野別就業人口特化係数



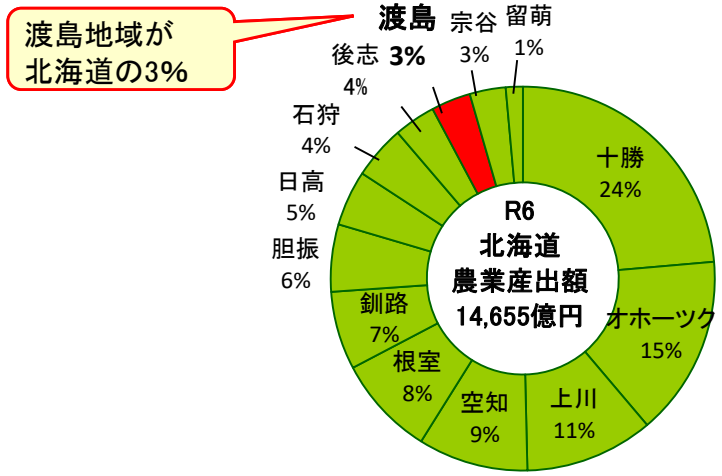
【特化係数】
・地域の産業がどれだけ特化しているかを表現する係数で次式で定義される。

$$\text{特化係数} = \frac{\text{対象地域のＡ業種の全業種に占める構成比}}{\text{全体におけるＡ業種の全業種に占める構成比}}$$

※ここでは全体を北海道とし、各業種の就業人口を用いて比較検討を行っている。

資料：令和2年国勢調査（総務省）

▼北海道の農業産出額内訳

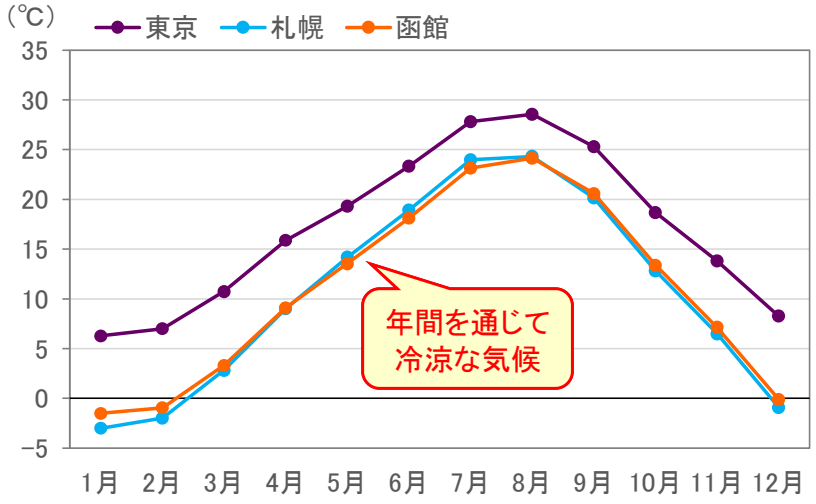


資料：令和6年市町村別農業産出額（農林水産省）

2-6） 地域の概況（気象）

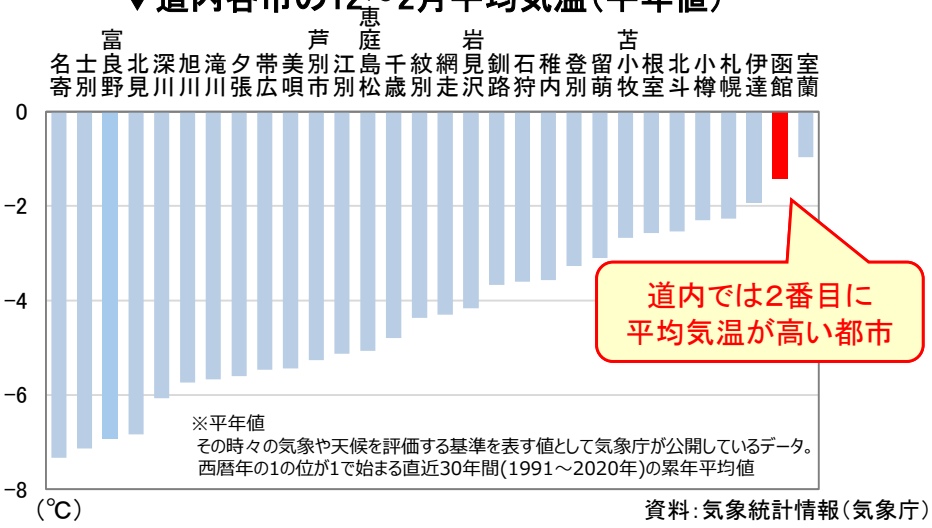
○渡島地域は年間を通じて比較的気温が低く冷涼な気候ではあるが、全道と比べると冬期（12～2月）の平均気温は道内各市の中で2番目に高い。また、全道平均値と比較して降雪量は少ない地域である。
○年間降水量（5か年平均値）は増加傾向にある。

▼函館市、札幌市の月別平均気温都市別比較



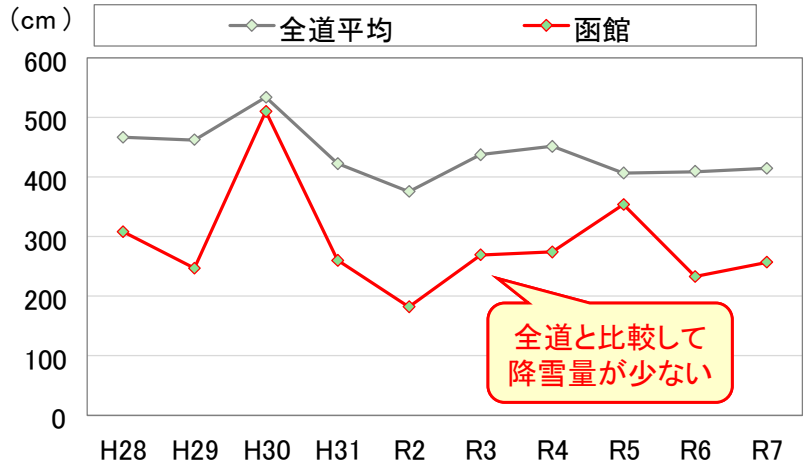
資料：気象統計情報（R3～R7）（気象庁）

▼道内各市の12～2月平均気温（平年値）



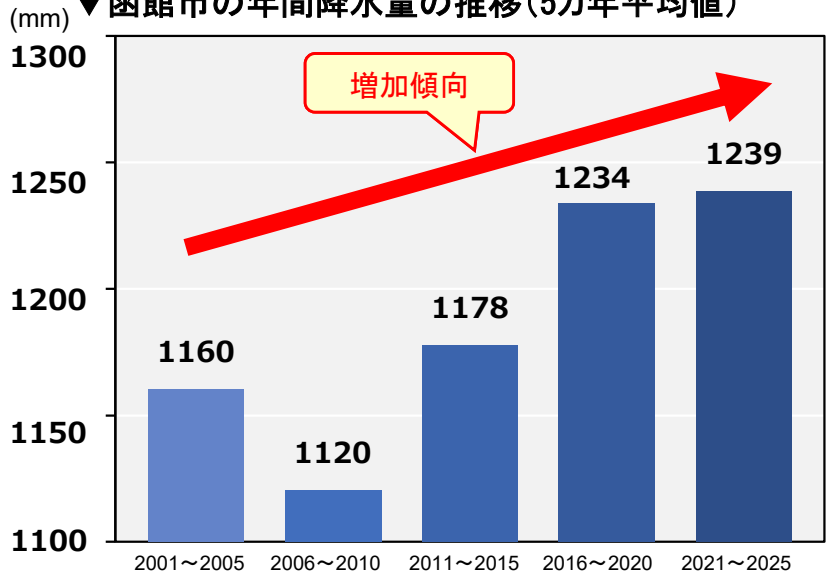
資料：気象統計情報（気象庁）

▼年別降雪量の比較



資料：気象統計情報（気象庁）

▼函館市の年間降水量の推移（5カ年平均値）

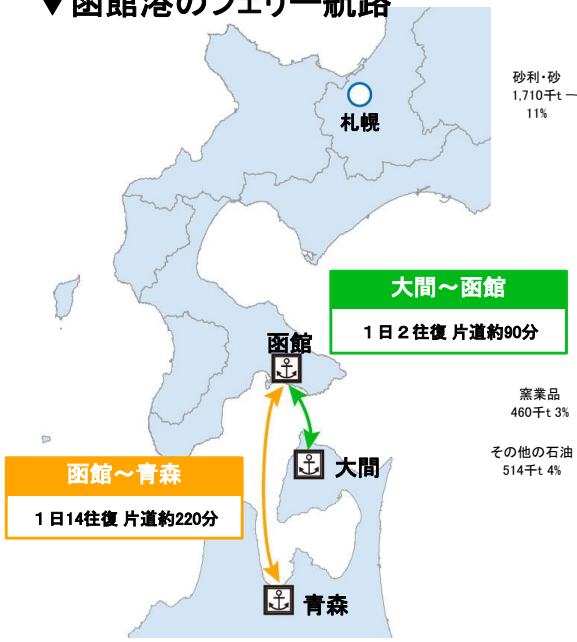


資料：気象統計情報（気象庁）

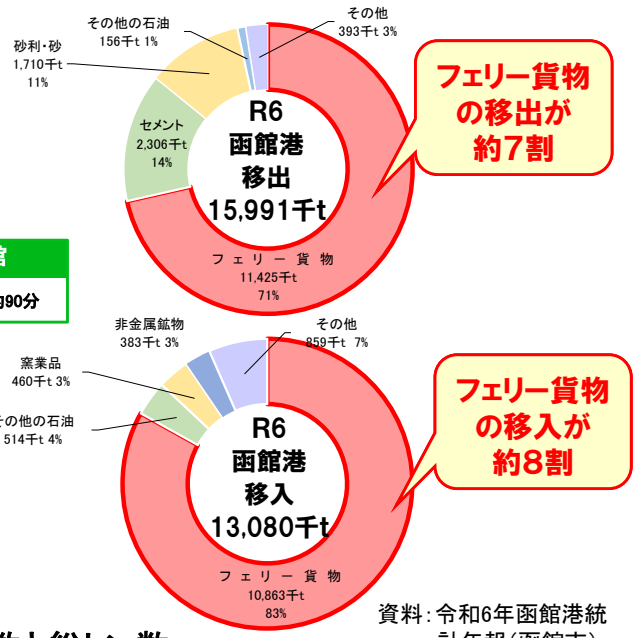
2-7） 地域の概況（函館港）

○函館港は昭和26年に重要港湾に指定され、北海道と本州を結ぶ航路の拠点として重要な役割を担っている。
　移出入貨物はフェリー貨物が約7～8割を占め、自動車航送船（※）の隻数は全国10位、総トン数は全国5位。
○函館港へのクルーズ船寄港が増加傾向にあり、コロナ禍中に寄港数が減少したものの、令和5年度にはコロナ以前の水準までクルーズ船の寄港数が回復。R7年には過去最高の寄港数を記録するなど観光が活性化。

▼函館港のフェリー航路



▼函館港の移出入貨物



資料：令和6年函館港統計年報（函館市）

▼全国港別入港船舶（※）の隻数と総トン数（※）自動車航送船

順位	港湾	隻数	港湾	総トン数（千トン）
1	鹿児島	31,860	鹿児島	46,277
2	広島	16,511	苫小牧	36,158
3	高松	15,135	北九州	31,698
4	竹原	13,510	青森	29,040
5	松山	10,887	函館	28,125
6	呉	9,523	大阪	26,860
7	宇野	8,453	新潟	24,413
8	安芸津	5,785	神戸	24,364
9	佐賀関	5,711	高松	18,960
10	函館	5,639	徳島小松島	15,687

隻　　数：全国10位
総トン数：全国５位

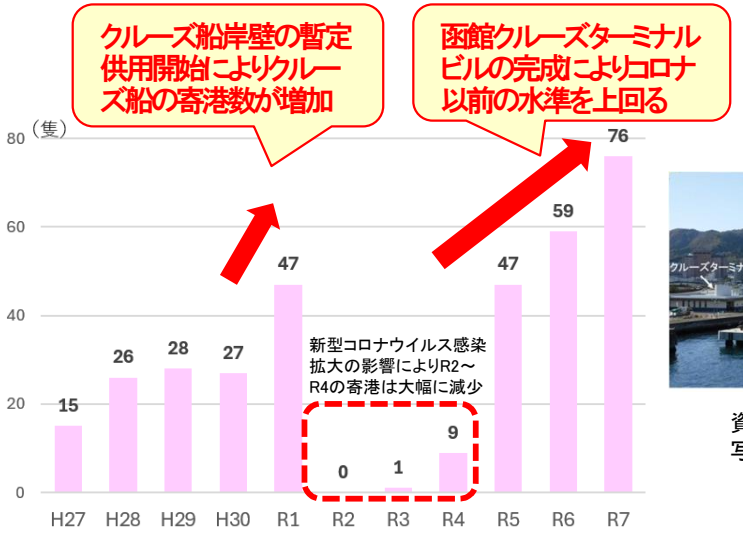
資料：令和6年港湾統計（国土交通省）

▼函館港の整備状況

（※）自動車航送船：自動車を海上輸送する船

昭和26年	函館港が**重要港湾**に指定
平成　3年	函館港の再開発を目的とした**港湾計画の改定**
平成17年	「賑わいと親しみあふれる活力ある函館港」を目指した**港湾計画の改定**
平成29年	**北ふ頭の耐震強化岸壁**および**幹線臨港道路**が完成
平成30年	若松ふ頭の**クルーズ船岸壁**が暫定供用開始
平成31年	**内貿コンテナ航路**が開設
令和　4年	道内初のクルーズ船専用ターミナルビル**「函館クルーズターミナルビル」**が完成

▼函館港のクルーズ船寄港履歴



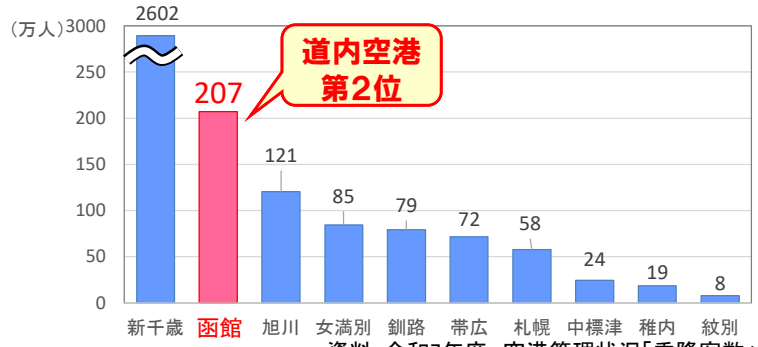


資料：函館港要覧（2024年）
写真：函館開発建設部
　　記者発表資料より抜粋

2-8）地域の概況（函館空港）

○函館空港は道内2位の乗降客数。令和5年度にはコロナ以前の水準まで乗降客数が回復し、令和7年度にはコロナ禍以降で過去最高乗降客数を記録。
○函館空港を利用する流動は道南圏が多いが、道央圏への流動も見られる。
○函館空港では国際線ターミナルの段階的拡張や商業施設改修が実施され、30年後の目標値として旅客者数331万人(現況の約2倍)、就航路線数は国内外10路線増を設定するなど、観光活性化が期待される。

▼道内の空港別乗降客数（R7年度）



資料：令和7年度　空港管理状況「乗降客数」（国土交通省）

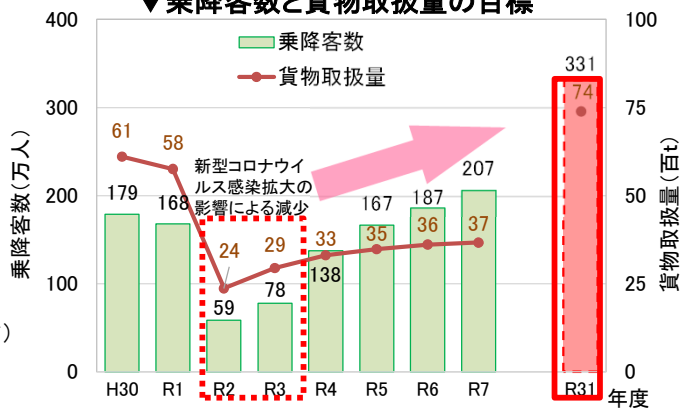
▼函館空港乗降客の流動



資料：令和5年度　航空旅客動態調査（国土交通省）

▼北海道エアポートグループの提案概要と30年後の目標（函館空港）

▼乗降客数と貨物取扱量の目標



※R31年度は、北海道エアポートグループの提案概要より記載
資料：暦年・年度別空港管理状況調書（国土交通省）

▼就航路線数の目標



※現在の就航路線は季節運航便を除く
将来の就航路線は北海道内7空港特定運営事業等マスタープランを参考に記載

▼設備投資状況

主な内容
・**国際線ターミナルの段階的拡張**の実施　・国際線受け入れに向けた応需体制の構築 ・旅客利便及び収益力向上に向けた**商業施設改修の実施**

資料：中期事業計画（2025年度～2029年度）（北海道エアポート株式会社）を参考に作成

▼主な取り組み

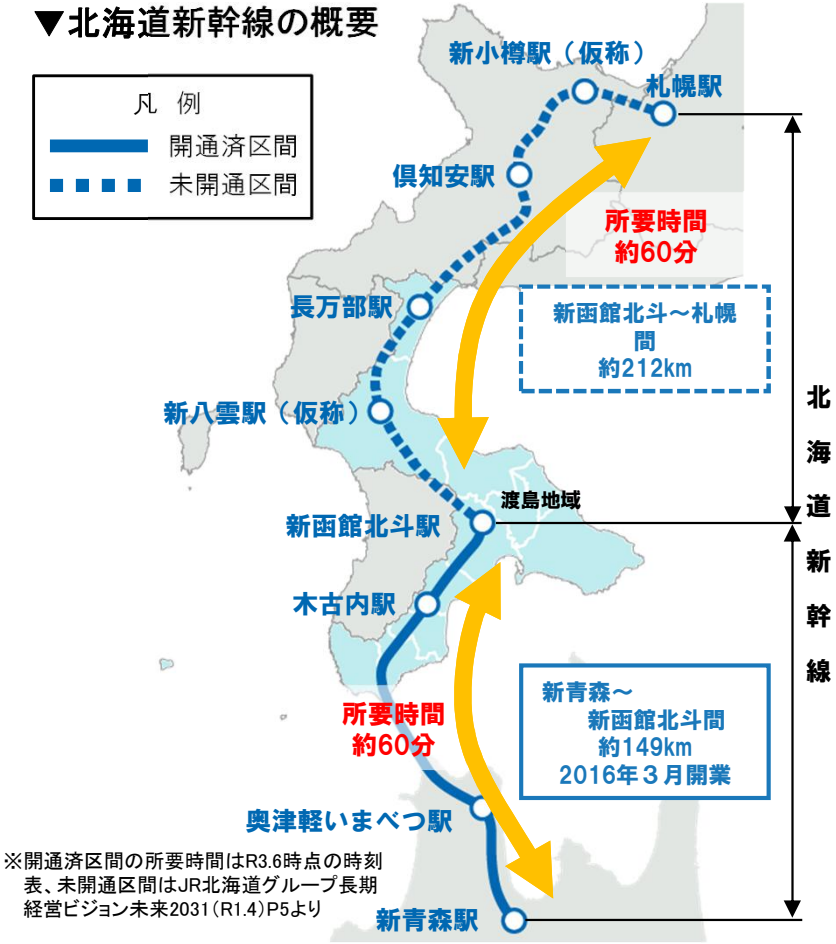
取組など	主な内容
航空ネットワークの充実	・**東日本周遊観光需要を創出**し、東アジア・東南アジア路線を誘致 ・季節繁閑差等のエアライン負担を低減し、オープンジョー・新規就航を促進する料金体系を導入 ・受入環境整備による新千歳空港の需要取込
地域との連携・地域共生	・**地域と連携し、函館と道南圏の魅力発信・向上**を促進 ・函館観光プラスワンのコンテンツPRや体験型観光商品づくりにより、通年観光や滞在型観光を促進
空港全体のショーケース化	・「函館レトロモダン」を空間コンセプトとした**旅客ビルを新設・改修** ・商業エリアに、函館の街歩きを想起させる**回遊型の商業施設を配置** ・到着ロビーに、函館の魅力を発信・PRする**観光コンシェルジュを整備**

資料：北海道内7空港特定運営事業等マスタープランを参考に作成

2-9） 地域の概況（北海道新幹線）

○ 2016年３月に新函館北斗駅が開業して以来、新幹線駅がある北斗市への道外観光入込客数は開業前に比べて約7倍に増加。現在は2038年度末頃の開業を目指して北海道新幹線新函館北斗～札幌間が事業中。
○函館圏では、新函館北斗駅を交通拠点に、高規格道路や連絡道路の整備など将来道路交通網の形成を促進。

▼北海道新幹線の概要



※開通済区間の所要時間はR3.6時点の時刻表、未開通区間はJR北海道グループ長期経営ビジョン未来2031（R1.4）P5より

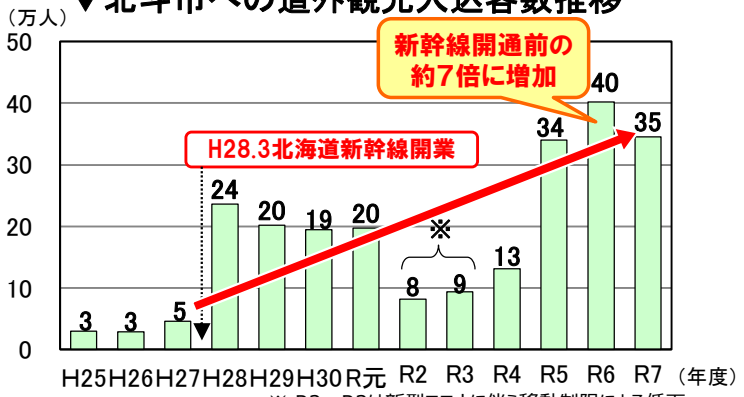
▼北海道新幹線の経緯

年次	経緯
2005年4月	新青森～新函館北斗間の工事実施計画が認可
2012年6月	新函館北斗～札幌間の工事実施計画が認可
2016年3月	**新青森～新函館北斗間が開業**
2038年度末頃※	**新函館北斗～札幌間が完成、開業予定**

※「北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議」において改めて精査中

資料：JR北海道ホームページ/北海道新幹線の概要

▼北斗市への道外観光入込客数推移



※ R2～R3は新型コロナに伴う移動制限による低下

出典：北海道観光入込客数調査報告書

▼地域の盛り上がり



七飯町　函館新幹線総合車両所見学会の様子（R3.11）

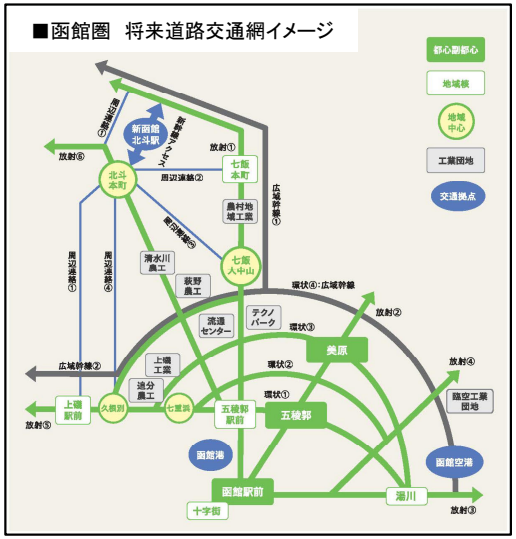


資料：七飯町ホームページ

▼新幹線開業に係る函館圏、七飯町の取り組み

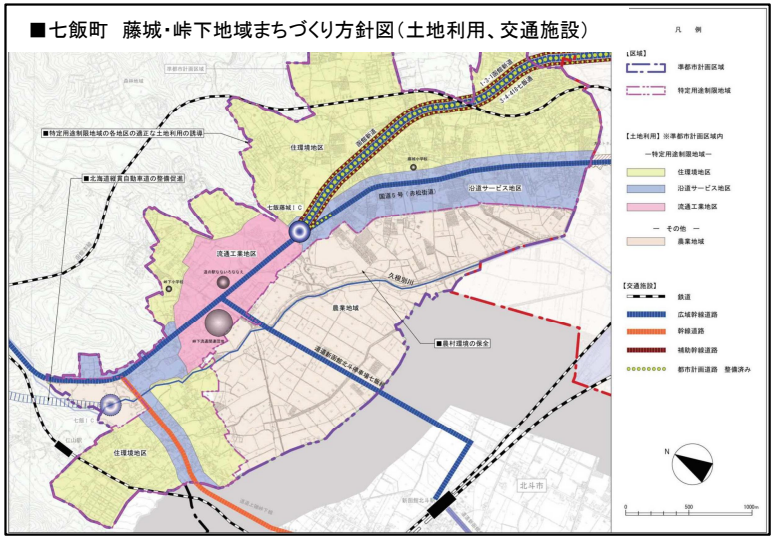
・函館圏都市交通マスタープランにおいて、新函館北斗駅を交通拠点と位置づけ、将来道路交通網の形成を促進。
・七飯町では、都市計画マスタープランにおいて新函館北斗駅を広域交通拠点と位置づけ、広域交通網の整備を促進。

■函館圏　将来道路交通網イメージ



資料：函館圏の都市交通マスタープラン
～函館圏パーソントリップ調査より～

■七飯町　藤城・峠下地域まちづくり方針図（土地利用、交通施設）



資料：七飯町都市計画マスタープラン

３．地域の状況と課題

3-1） 地域の状況と課題（災害）

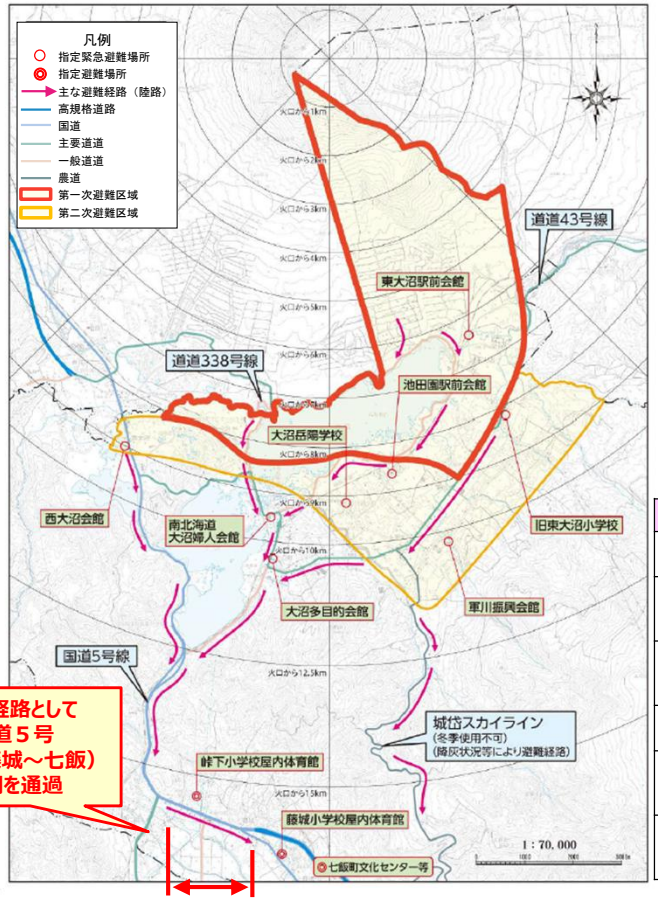
○七飯藤城～七飯間の国道5号は、災害時の緊急輸送を円滑に行うための道路である緊急輸送道路に指定されているが、久根別川の洪水浸水想定区域が存在しており、災害時でも通行可能な道路機能の確保が課題。
○七飯藤城～七飯間の周辺には、過去に大規模噴火の被害をもたらした活火山の駒ヶ岳が存在。救命・救助活動や緊急物資支援など、復旧・復興活動に寄与する道路機能の確保が課題。

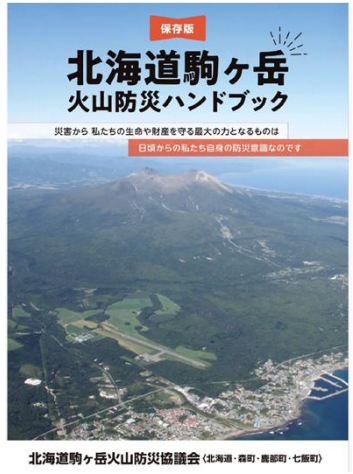
▼当該区間周辺の緊急輸送道路



▼駒ヶ岳噴火時の避難経路

北海道駒ヶ岳避難経路図（七飯町）





▼駒ヶ岳の噴火履歴

時期	規模	噴火の内容
1929年（昭和4年）	大噴火	・駒ヶ岳周辺地域に多大な被害
1937年（昭和12年）	小噴火	・小規模な噴火活動
1942年（昭和17年）	中噴火	・噴火による降灰、山頂に大きな亀裂
1996年（平成8年）	小噴火	・新たな火口が出現
1998年（平成10年）	小噴火	・新たな火口が出現
2000年（平成12年）	小噴火	・3ヵ月間に6回の小規模な噴火

資料：北海道駒ヶ岳火山防災ハンドブック

3-2） 地域の状況と課題（医療）

○渡島地域では対応可能な診療科目が限られており森町、八雲町、今金町から第三次・第二次救急医療機関が集積する函館市への救急搬送は増加傾向。特に森町や八雲町では約9割が函館市に依存している状況。
○森町、八雲町、今金町における心疾患や脳血管疾患の死亡率は全道平均を上回る傾向にある。
○森町、八雲町、今金町から函館市への救急搬送ルート上には主要渋滞箇所が存在しており、函館市への更なる速達性・安定性の高い救急搬送ルートの確保が課題。

▼沿線3町から函館市への救急搬送状況



▼渋滞に巻き込まれる救急搬送車両

写真：函館開発建設部（R8.5.5撮影）

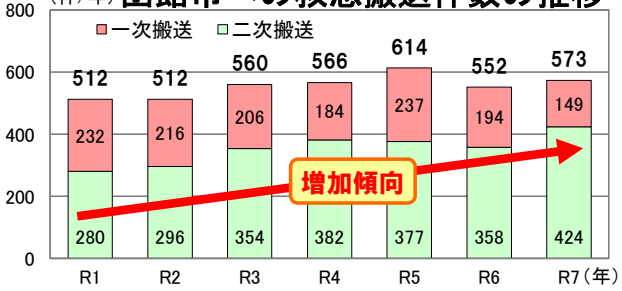
▼渡島地域における診療科目の状況

	函館市	鹿部町	七飯町	松前町	森町	知内町	長万部町	八雲町	福島町	北斗市	木古内町
循環器科	53	0	3	0	3	0	0	3	1	5	1
心臓血管外科	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	10	0	3	0	1	0	0	1	0	0	0
産婦人科	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
第三次救急医療機関	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

重篤な症状に対応できる病院は函館に集中

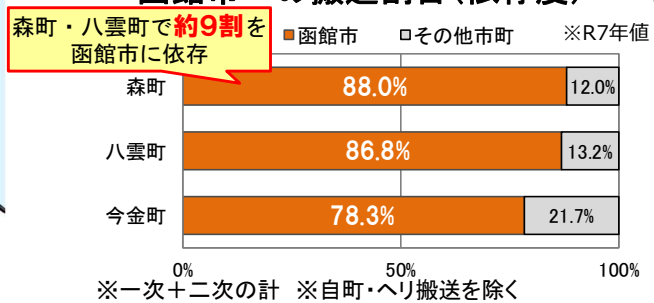
資料：医療機関名簿（北海道HP）
令和7年4月1日現在

▼森町・八雲町・今金町から函館市への救急搬送件数の推移



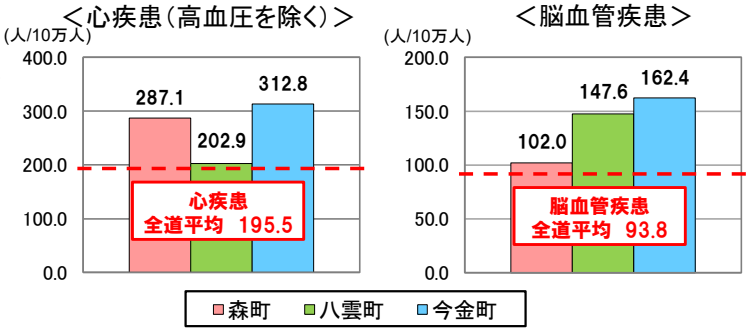
出典：函館開発建設部　※ヘリ搬送を除く

▼森町・八雲町・今金町から函館市への搬送割合（依存度）



※一次＋二次の計　※自町・ヘリ搬送を除く
出典：函館開発建設部

▼森町・八雲町・今金町の要因別死亡率



出典：北海道保健統計年報（R1-R5年）※5年平均

道南の第三次救急医療機関は「市立函館病院」のみ

＜第三次救急医療機関＞
市立函館病院

●診療科目数：　30科
●病　床　数：648床

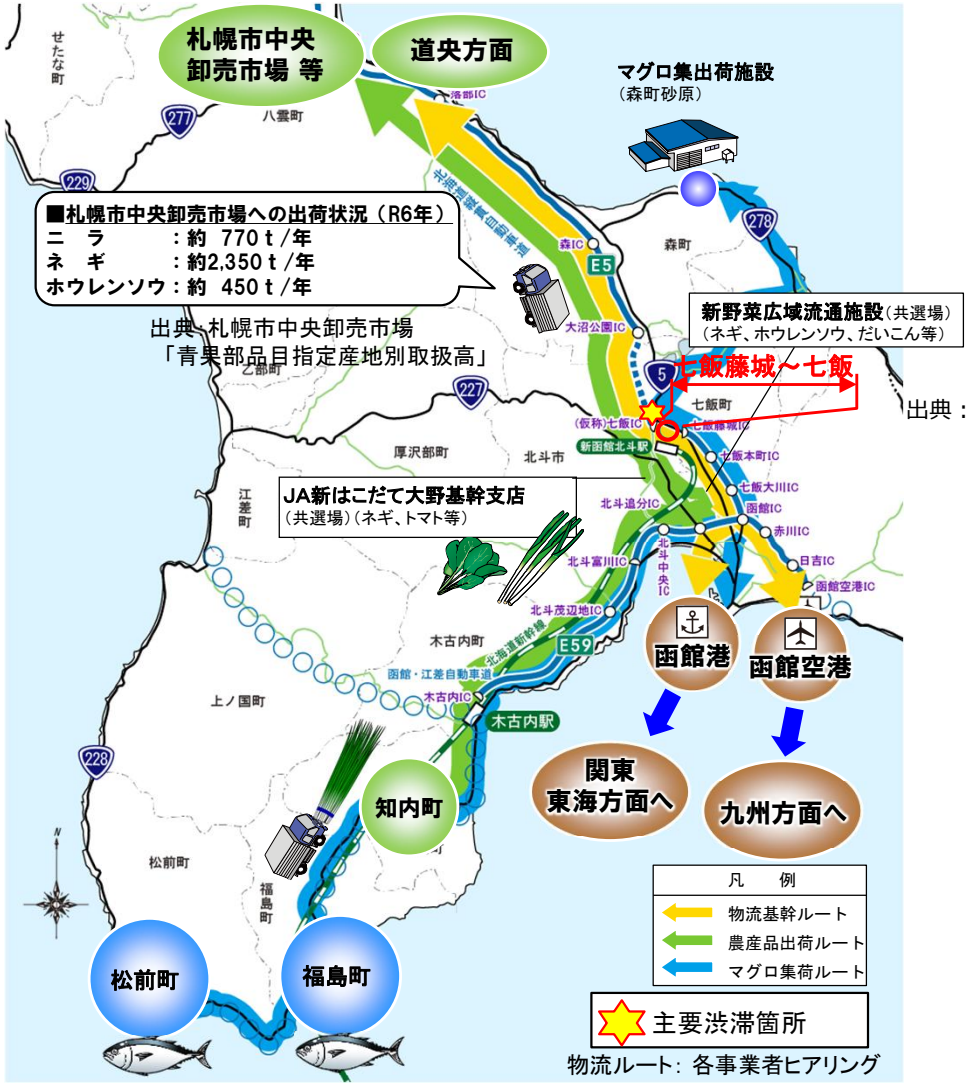
出典：道内の病院一覧（R8.5現在）

■地域の声（R8.5 八雲消防署職員）

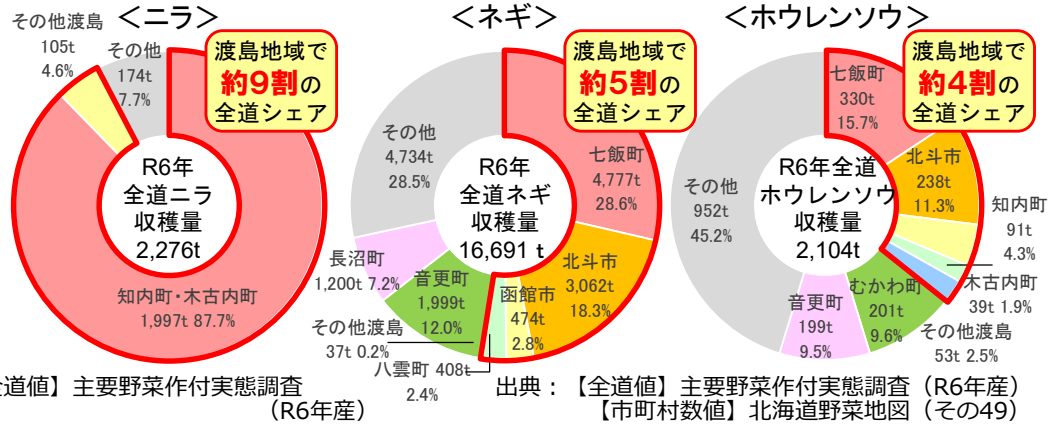
・急性期の患者の搬送においては、一刻を争うような搬送であり、現道の渋滞が発生した場合には、病院への到着が遅れるリスクもあることから、定時性の確保が課題です。
・高規格道路の整備により、渋滞や追い越し困難等の課題が解消され、搬送時間の短縮が図られます。これにより、患者や医療関係者への負担も軽減されるため必ず利用するようになります。

3-3） 地域の状況と課題（物流）

○渡島地域のニラ、ネギ、ホウレンソウの収穫量は全道トップクラスのシェアを占め、またマグロの漁獲量は全道の約8割のシェアを占めており、国道5号を経由し札幌市中央卸売市場など道央圏へ輸送。
○重要港湾である函館港は、道内の港におけるフェリー航送台数の約3割を占め、本州への物流ルートとして広く利用されており、道内外を結ぶトラック輸送の重要な拠点となっている。しかしながら、主要な物流ルートである国道5号には主要渋滞箇所が存在しており、輸送における速達性・定時性に課題がある。



▼ニラ、ネギ、ホウレンソウの市町村別収穫量シェア

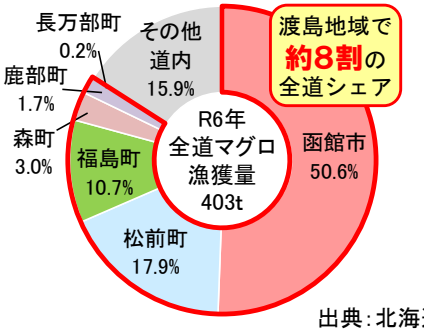


出典：【全道値】主要野菜作付実態調査（R6年産）
【市町村数値】新函館農業協同組合ヒアリング

出典：【全道値】主要野菜作付実態調査（R6年産）
【市町村数値】北海道野菜地図（その49）
R8.3発行

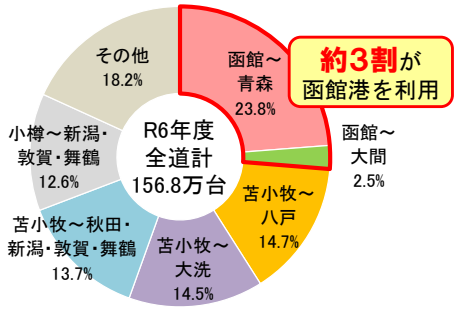
▼道内振興局別漁獲量

＜マグロ＞



出典：北海道水産現勢

▼道内の港の航路別 フェリー航送台数割合



出典：数字で見る北海道の運輸

■地域の声（R8.5 水産物運送事業者職員）
・フェリーの出航時間は常に決まっています。フェリーに乗れなかった場合の、鮮度や価格の低下リスクは避けたいです。国道5号は混雑することが多いため 、輸送時間が正確な高規格幹線道路の開通を望みます。

3-4） 地域の状況と課題（観光）

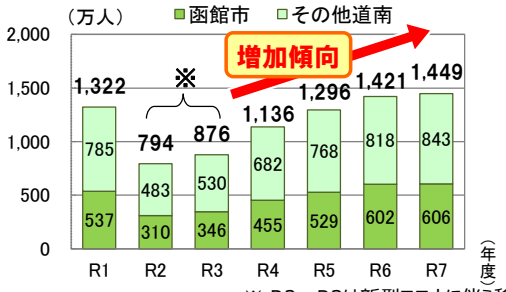
○道南地域は観光客および宿泊客が増加傾向にあり、函館市は市町村魅力度ランキングで全国１位を獲得。函館市への来訪に際して、乗用車などの道路利用による観光客は増加傾向にある。
○観光期（GW)には、国道5号峠下交差点で通常期（平日）と比較して最大7分の遅延が発生しており、道南観光地間の移動に時間がかかることが課題。

▼道南地域の観光資源と周遊観光ルート



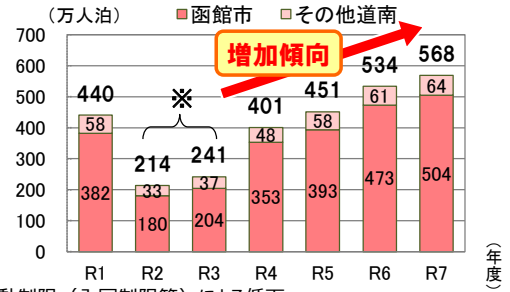
▼国道5号七飯藤城～七飯間の所要時間比較
（下り：函館→札幌方向） ※11時台

▼道南地域の観光入込客数推移

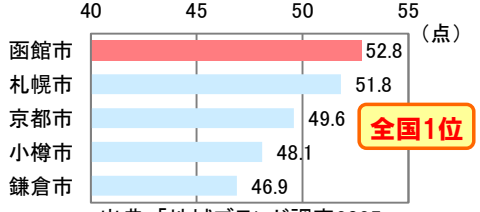


※ R2～R3は新型コロナに伴う移動制限（入国制限等）による低下
出典：北海道観光入込客数調査報告書
（四捨五入の関係上、合計値が合わない場合がある）

▼道南地域の宿泊客延べ数推移

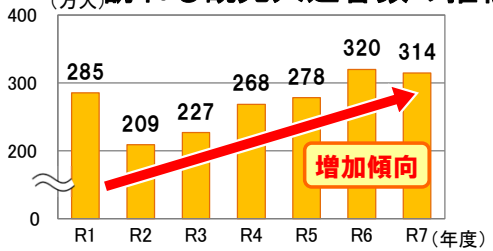


▼市町村魅力度ランキング2025



出典：「地域ブランド調査2025」
（株式会社ブランド総合研究所）

▼乗用車等を利用して函館市を訪れる観光入込客数の推移



※ R2～R3は新型コロナに伴う移動制限
（入国制限等）による低下
※乗用車等：バス含む　　出典：来函観光入込客数推計

■地域の声
（R8.5 七飯町観光協会職員）
- 現道の渋滞により、観光施設への到着遅れ、体験プログラム等のキャンセルや遅延が発生しており、観光の質の低下が懸念されています。
- 乗用車移動による個人観光客や、バス移動による団体観光客の周遊性向上が期待されるため、開通が望まれます。

■地域の声（R8.5 旅行業者職員）
- 現道を通過するルートを企画する際には、移動の所要時間を正確に把握できない場合が多いです。
- 観光地間のスムーズなアクセスは、乗客の快適さの確保に繋がることから、早急な整備を望みます。

４．道路の状況と課題

4-1）国道5号七飯藤城～七飯間の道路課題（災害）

○久根別川の洪水浸水想定区域が存在。洪水災害発生時は国道が通行できなくなる恐れがある。
○国道5号に通行止めが生じた場合には、通常時に比べ函館市への移動に約52分の迂回が必要。



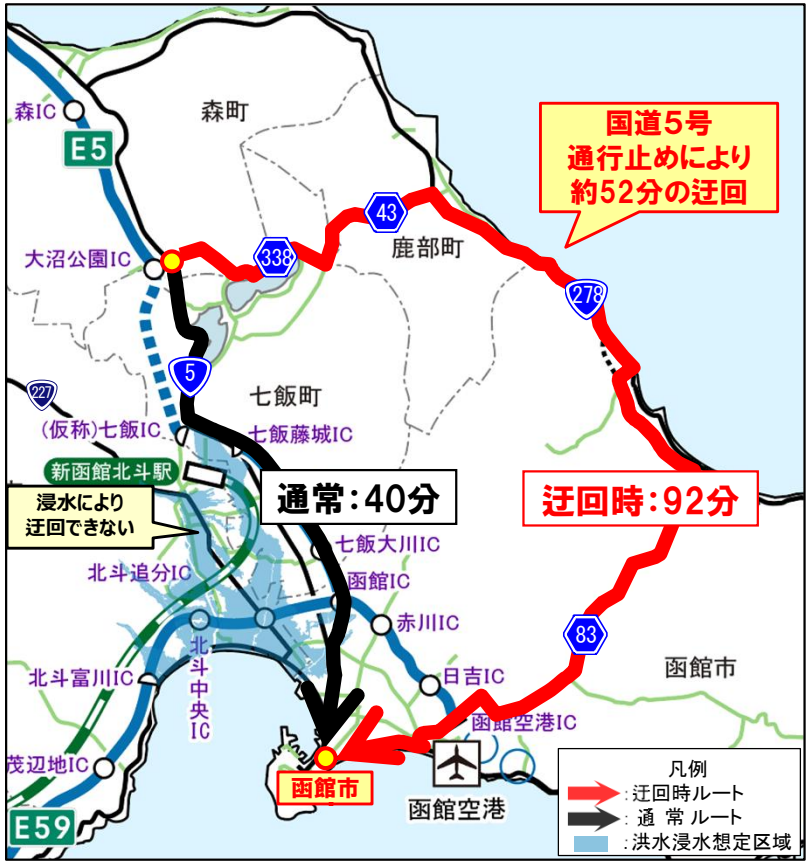
▼令和7年8月の大雨時の国道5号冠水状況



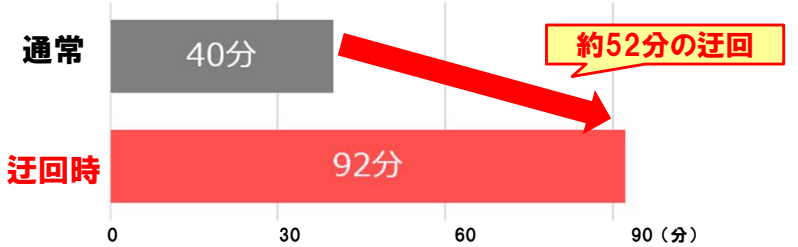
▼令和7年8月大雨時の久根別川氾濫状況



▼国道5号通行止め時の迂回路



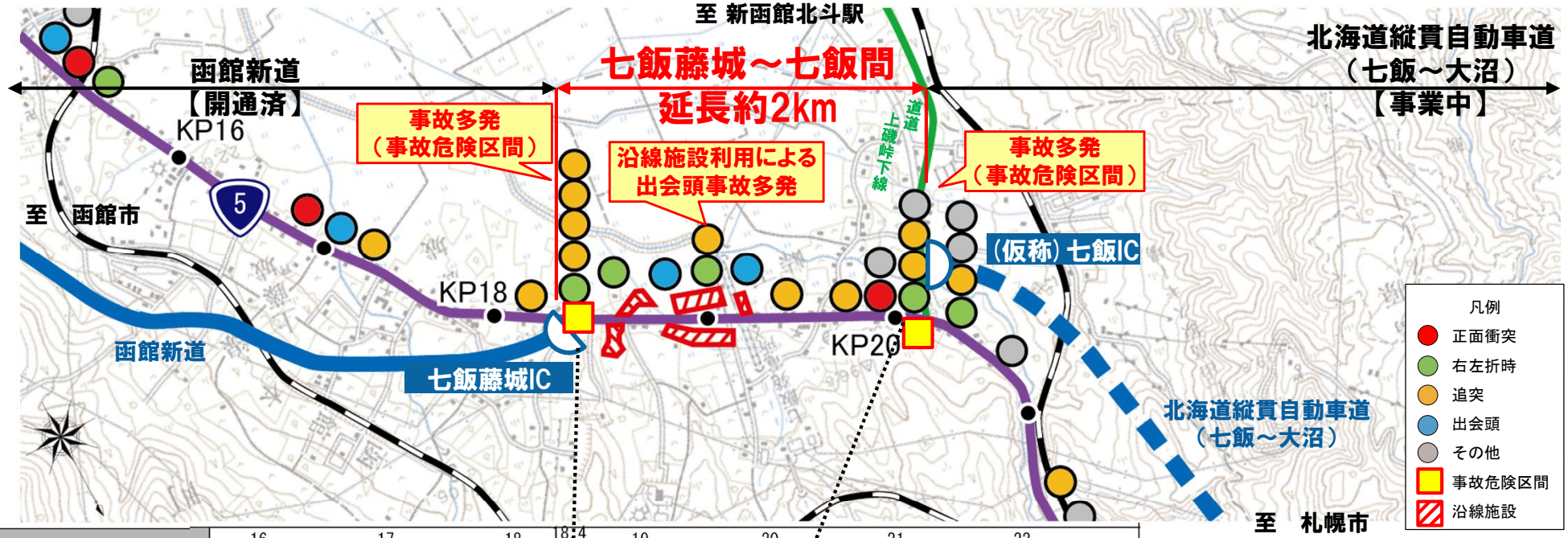
▼国道5号通行止め時の迂回時間（七飯町～函館市）

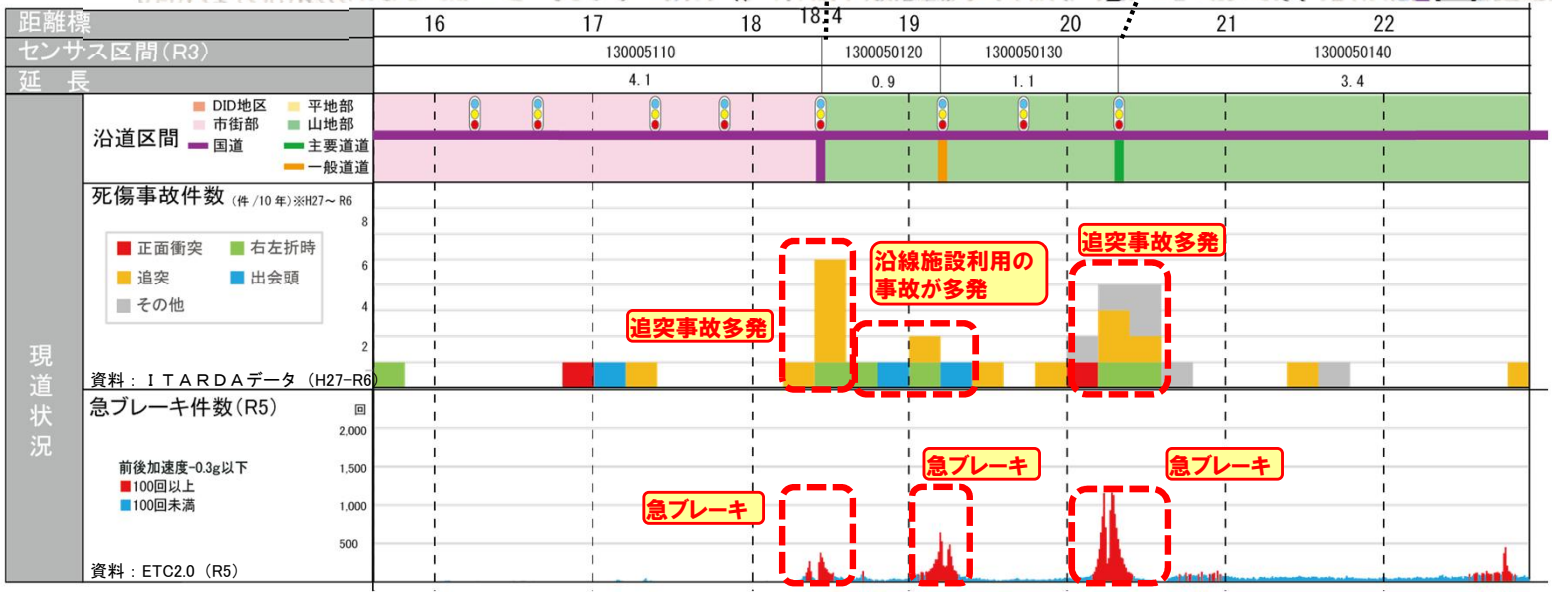


起点：国道5号×道道大沼公園鹿部線交差点
終点：函館市役所

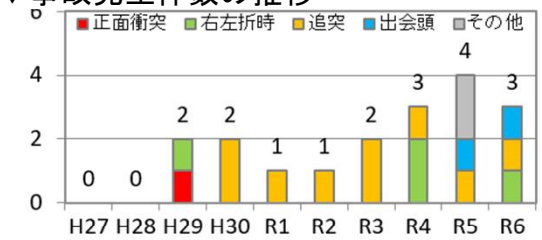
4-2） 国道5号七飯藤城～七飯間の道路課題（安全）

○七飯藤城～七飯間の約2km区間内においては、事故危険区間が複数箇所存在しており、事故が多発している。
○沿道施設利用において急ブレーキが多発しており、右左折時の事故や急ブレーキに起因する追突事故の割合は、全道と比較して多くなっている。

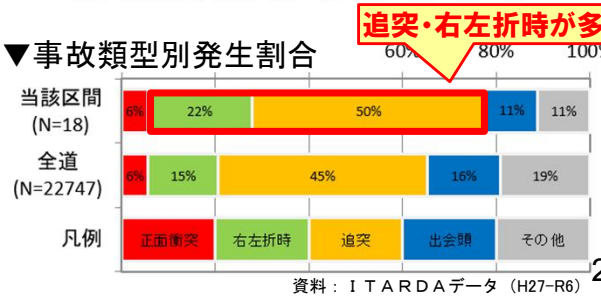




▼事故発生件数の推移



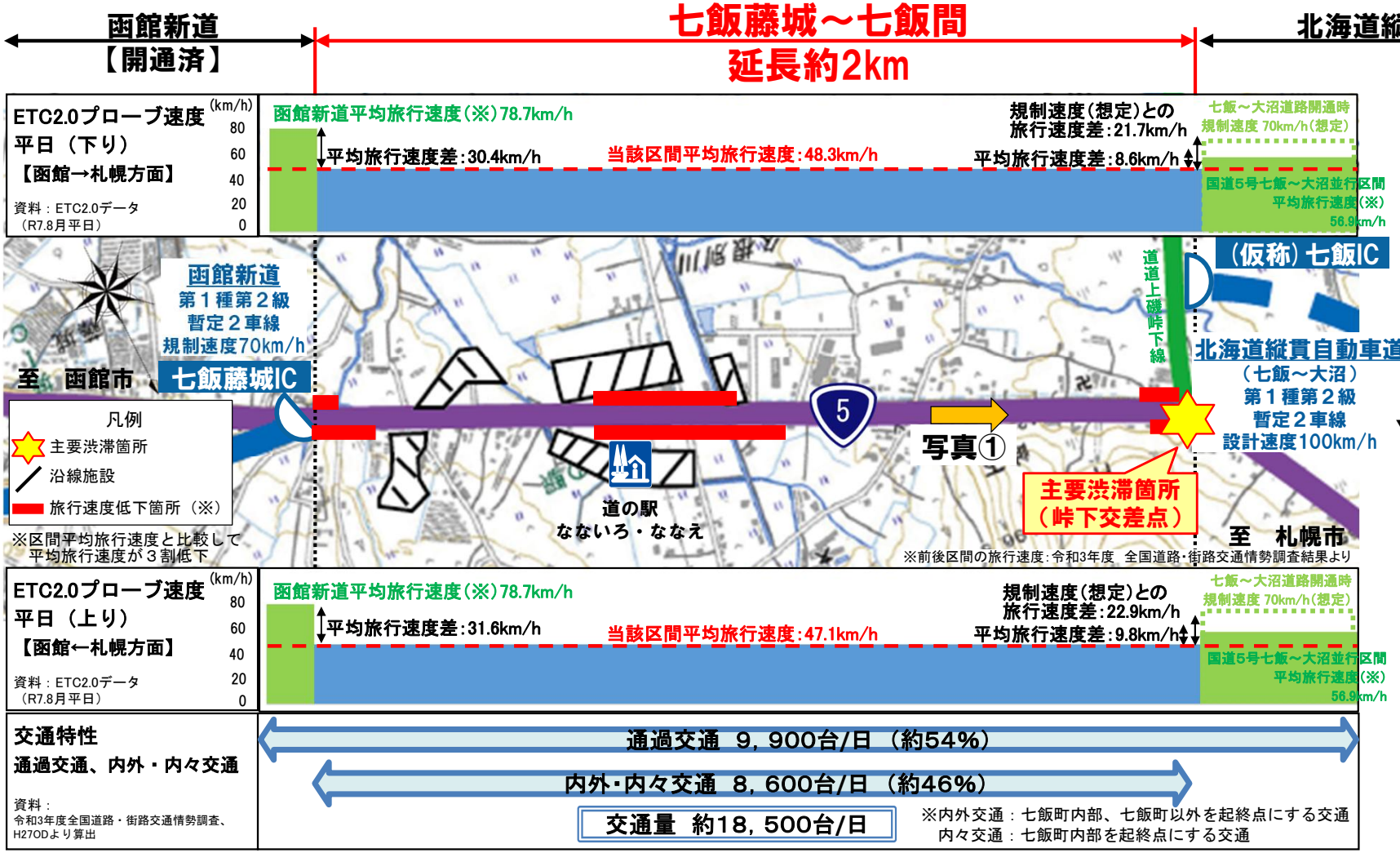
▼事故類型別発生割合



資料：ＩＴＡＲＤＡデータ（H27-R6）

4-3） 国道5号七飯藤城～七飯間の道路課題（旅行速度）

○七飯藤城～七飯間の国道5号前後区間は、高規格道路で整備しており、当該区間がボトルネックとなっており、前後区間の平均旅行速度と比較しても、平日の当該区間の旅行速度は著しく低下。
○当該区間における交通量の構成は、通過交通が約54%、内外・内々交通が約46%。通過交通と内外・内々交通が混在し、沿線施設の出入口付近において車両速度の著しい低下が発生。
○観光期においては、当該区間を通過する所要時間が通常期より7分増加。沿線施設を利用する車両が後続車両の減速・停車を余儀なくさせることで、円滑な交通流が阻害されていることも混雑発生の一因となっている。

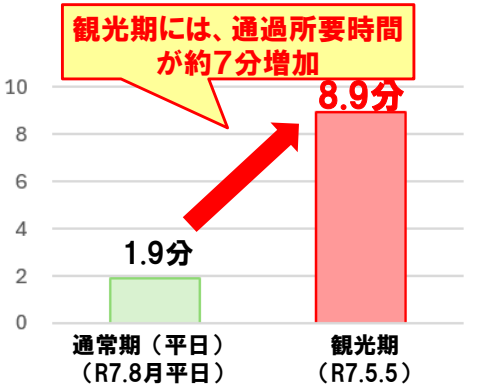


観光期における
主要渋滞箇所の混雑状況



出典：渋滞長調査（R８．５．３）
写真：函館開発建設部

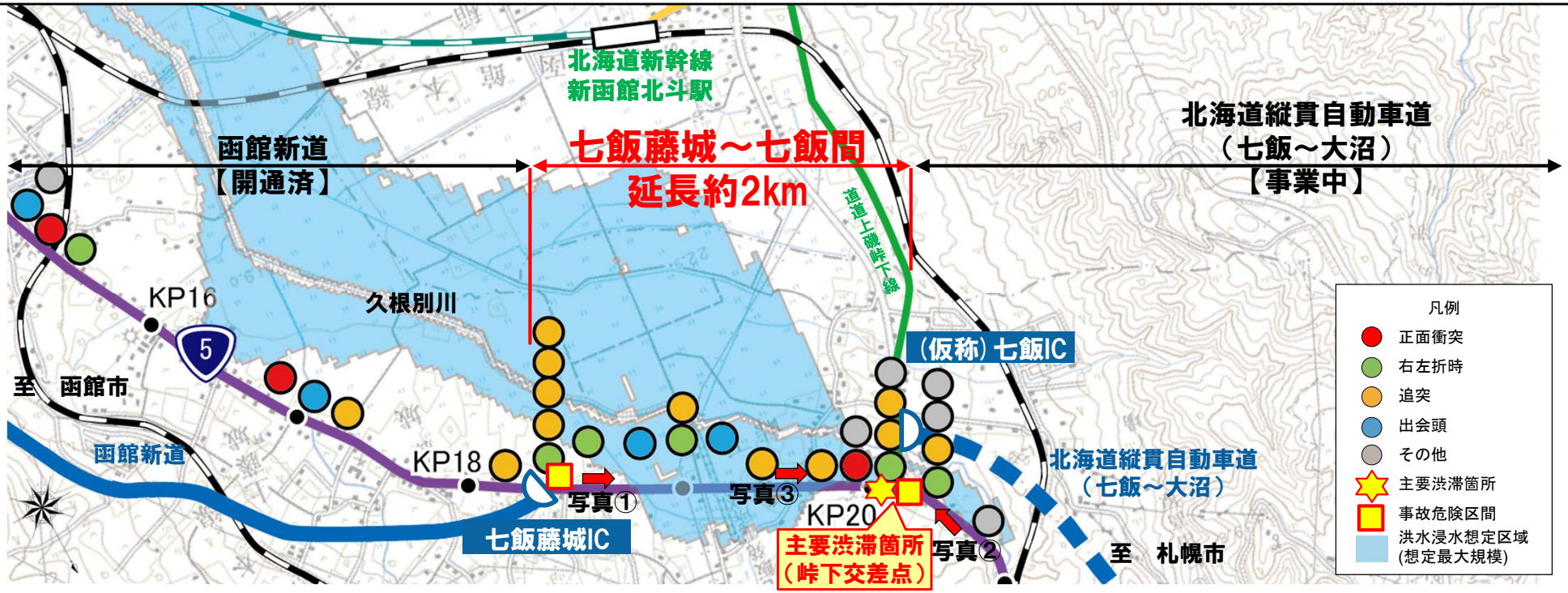
▼当該区間通過の所要時間比較
（下り：函館→札幌方向） ※11時台



資料：ETC2.0データ
（平日 ：R7.8.1 11時台）
（GW期間：R7.5.5 11時台）を対象として分析

4-4） 国道5号七飯藤城～七飯間の道路課題

〇災害：久根別川の洪水浸水想定区域が国道5号七飯藤城～七飯間に存在。
〇安全：国道5号峠下交差点は事故危険区間に指定されており、事故発生件数が増加傾向。
〇旅行速度：国道5号峠下交差点は主要渋滞箇所に指定されており、平日も混雑による速度低下が発生。



災害

写真①



大雨による国道5号の冠水（R7.8）

洪水浸水想定区域が存在

安全

写真②



峠下交差点事故状況（R8.3）

事故危険区間が存在。事故発生件数が増加傾向

旅行速度

写真③



国道5号の混雑状況（R8.5）

国道５号峠下交差点は主要渋滞箇所
平日も混雑による速度低下が発生

５．課題の整理

5-1） 地域の状況と道路の状況（案）

地域の状況（案）	道路の状況（案）	テーマ
○久根別川の洪水浸水想定区域が存在する他、活火山の駒ヶ岳が存在しており、災害時の救命・救助活動や復旧・復興活動の実施が求められる。	○国道5号当該区間は久根別川の洪水浸水想定区域が存在し、洪水発生時に国道が通行できない恐れがある。 ○また、周辺には活火山の駒ヶ岳も存在し、噴火時の避難経路となっている。 ○国道5号は、緊急輸送道路として指定されている。	災害 （防災）
○函館市に第三次・第二次救急医療機関が集積しており、他の市町村から函館市への救急搬送が増加している。	○国道5号当該区間は第三次・第二次救急医療機関がある函館市への救急搬送ルートとして利用されるが、主要渋滞箇所や事故危険区間が存在。 ○沿線施設利用車両による急ブレーキに起因する追突事故が多発している。	暮らし （医療）
○渡島地域では、全道トップクラスのシェアを占める農水産物を出荷しており、道央圏や本州に輸送している。	○国道5号当該区間は主要な物流ルートであるが、主要渋滞箇所や高規格幹線道路の未整備区間が存在。 ○沿線施設利用車両が円滑な交通流を阻害することにより、観光期には旅行速度が低下し通過所要時間が増加している。	農水産業支援 （物流）
○道南地域の観光客および宿泊客が増加傾向にある一方、観光地間の移動に時間がかかる。	○国道5号当該区間は主要観光ルートであるが、主要渋滞箇所や高規格幹線道路の未整備区間が存在。	観光支援 （観光）

⇒今後のアンケート・ヒアリング、自治体との調整等により、明確化を行う。

5-2） 地域・道路の状況から導かれる地域の課題（案）

地域・道路の状況から導かれる地域の課題（案）		
	災害 （防災）	○国道5号には久根別川の洪水浸水想定区域が存在する一方、駒ヶ岳噴火時の避難経路である他、災害時の緊急輸送道路にも指定されており、救命・救助活動や緊急物資支援などの復旧・復興活動に寄与する道路機能の確保が課題。
	暮らし （医療）	○国道5号は第三次・第二次救急医療機関が集積する函館市への救急搬送ルートであり、速達性・安定性の確保が課題。
	農水産業支援 （物流）	○国道5号は渡島地域の農水産物を道央圏や本州に輸送にする際の主要な物流ルートであり、速達性・定時性の確保が課題。
	観光支援 （観光）	○国道5号は主要観光ルートであり、速達性・定時性の確保が課題。



６．政策目標（案）の設定

6-1）地域計画

○北斗市、七飯町、函館市の関連計画や函館圏都市交通マスタープランから、地域の将来像、道路整備に関する方針を整理。

地域の将来像・道路整備に関する方針

防災

○消防力の強化
〔第2次北斗市総合計画（2018-2027）〕
○災害対応力の充実強化
〔第6次七飯町総合計画（2026-2035）〕
○快適な暮らしを実現する生活環境の確保
〔第3期函館市活性化総合戦略（2025-2029）〕
○災害時緊急輸送道路ネットワークの強化
○迅速な避難に資する道路網の確保
〔令和4年　函館圏の都市交通マスタープラン〕

医療

○救急・救助体制の強化
〔第2次北斗市総合計画（2018-2027）〕
○救急救命体制の充実強化
〔第6次七飯町総合計画（2026-2035）〕
○地域で支え合い健康で生き生きと暮らせる環境の充実
〔第3期函館市活性化総合戦略（2025-2029）〕

産業・経済

○農業生産基盤整備の推進
○水産物の消費と販路の拡大
〔第2次北斗市総合計画（2018-2027）〕
○農林水産業の振興
○企業の誘致促進
〔第6次七飯町総合計画（2026-2035）〕
○高速交通ネットワークを形成する北海道縦貫自動車道の整備促進
〔函館市都市計画マスタープラン（2011-2030）〕
○集約型都市構造に伴う道路ネットワークの見直し
〔令和4年　函館圏の都市交通マスタープラン〕

観光

○観光資源の充実及び周遊観光の推進
〔第2次北斗市総合計画（2018-2027）〕
○滞在型観光の推進
○外国人観光客の受入環境の整備
〔第6次七飯町総合計画（2026-2035）〕
○観光の価値を高める取組の強化、陸・海・空の交通ネットワークの充実
〔第3期函館市活性化総合戦略（2025-2029）〕
○道路・鉄路・空路・海路の連携強化による観光ネットワークの整備
○観光客が集中するエリアでの交通対策
〔令和4年　函館圏の都市交通マスタープラン〕

資料：第2次北斗市総合計画（2018-2027）、第6次七飯町総合計画（2026-2035）、第3期函館市活性化総合戦略（2025-2029）、函館市都市計画マスタープラン（2011-2030）
令和4年　函館圏の都市交通マスタープラン

（参考） 地域計画（北斗市、七飯町のまちづくり）

〇北斗市では、農林業・漁業・観光の振興、消防・救急体制の強化などの方針が示されている。
〇七飯町では、消防・救急・防災体制の充実、農林水産業・観光の振興などの方針が示されている。
〇また、両自治体とも高規格幹線道路の整備促進に取り組む方針が示されている。

北斗市のまちづくり基本目標

（１） 新幹線を生かした元気で魅力あるまちづくり
（２） 誰もが幸せで輝くまちづくり
（３） 安全・安心な便利で暮らしやすいまちづくり
（４） 市民参加による協働のまちづくり

施策の概要

■農林業の振興
・農業生産基盤整備の推進　・森林保全と森林整備の促進

■漁業の振興
・つくり育てる漁業の推進　・水産物の消費と販路の拡大

■観光の振興
・観光資源の充実及び周遊観光の推進　・多様な交流の推進　・広域観光の推進

■消防、救急体制の強化
・消防力の強化　・救急・救助体制の強化

■生活道路の整備
・道路網の充実　・安全で快適な道路空間の形成

■公共交通の充実
・公共交通の確保と充実　・バス交通の確保と利用促進

■広域交通ネットワークの整備促進
・国道の整備促進　・北海道縦貫自動車道の早期完成を要望

資料：第2次北斗市総合計画（2018～2027）

七飯町のまちづくり基本目標

（１） 便利で安全なまちづくり
（２） 快適なまちづくり
（３） ふれあいと支え合いのまちづくり
（４） 学ぶ喜びを生み出すまちづくり
（５） 活気とにぎわいのあるまちづくり
（６） 協働のまちづくり

施策の概要

■道路・交通ネットワークの整備
・北海道縦貫自動車道、函館新道などの広域幹線道路網の形成を促進

■消防・救急・防災体制の充実
・災害対応力の充実強化　・救急救命体制の充実強化

■農林水産業の振興
・良質な米・野菜・花き・果樹の振興 ・酪農・畜産の体質強化 ・内水面漁業の振興

■商・鉱工業の振興
・企業の誘致促進

■観光の振興
・滞在型観光の促進　・外国人観光客の受入環境の整備　・広域観光の推進

■開かれた協働のまちづくりの推進
・七飯町活力のあるまちづくり推進事業の活用促進

■移住定住の促進と関係人口の拡大
・関係人口の拡大

資料：第6次七飯町総合計画（2026-2035）

（参考） 地域計画（函館市のまちづくり）

〇函館市では、広域観光の推進、防災対策の強化などの方針が示されている。
〇また、安全で利便性の高い交通環境の確保、高規格幹線道路の整備促進に取組む方針が示されている。

函館市のまちづくり基本目標

（１）結婚・出産の希望がかない，未来をひらくひとが育つまちをめざす
（２）働きがいのあるしごとの創出と地域経済の活性化をめざす
（３）いつまでも健康で充実した生活を送ることができるまちをめざす
（４）住むひと・訪れるひとにとって，魅力あるまちをめざす

施策の概要

■ＤＸ推進等による地元企業の競争力強化への支援
・市内中小企業等の生産性の向上を図るため，「普及啓発」「人材育成」「戦略策定」

■持続可能で魅力的な農林水産業実現のための取組
・一次産業への新規就業や基盤の整備に対する支援

■地域で支え合い健康で生き生きと暮らせる環境の充実
・地域包括支援センターを中心とした相談体制の充実

■観光の価値を高める取組の強化
・交通利便性を高めることで函館市を拠点とした観光客の周遊を促進

■陸・海・空の交通ネットワークの充実
・クルーズ船の寄港数増や国内線・国際線の運航増に向けた取組を強化

■災害時においても被害の軽減が図られるよう，災害に強いまちづくり
・道路などの生活を支えるインフラの適切な維持管理

■安全で利便性の高い交通環境の確保
・新技術を活用した新たな移動サービスの活用検討
・公共交通ドライバーの確保へ向けた取組

資料：第3期函館市活性化総合戦略（2025-2029）

函館市のまちづくりの目標

（１）歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり
（２）快適・安全なまちづくり
（３）市街地と農漁村地域が共生するまちづくり
（４）美しくうるおいあふれるまちづくり
（５）経済活動を支えるまちづくり

まちづくりの方針の概要

■広域幹線道路の整備
・高速交通ネットワークを形成する北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道の整備促進
・新外環状線（函館IC～古川町）の整備促進

■港湾施設の充実
・道南の流通拠点として物流の効率化を図るため、物流機能・フェリー輸送機能を強化
・国際観光都市としてにぎわいと魅力ある空間形成を図るため、停泊施設の整備促進

■空港施設の機能保持
・空港の快適性や利便性の向上、将来の航空需要に対応したターミナル機能の充実

■緑環境の保全
・函館山緑地の自然環境・生態系保全、旧要塞跡地の活用

■流通業務地の土地利用
・交通結節点としての利便性を生かし流通業務系施設や沿道サービス系施設等の立地
・ユニットロード化に対応した港湾関連施設の物流機能強化

■商業業務地の土地利用
・主要幹線道路沿道への沿道サービス系施設や生活利便施設等の立地

資料：函館市都市計画マスタープラン（2011-2030）

（参考） 地域計画（函館圏）

〇函館圏の都市交通マスタープランにおいて、都市圏形成や都市交通の考え方が整理されている。
〇道路・鉄路・空路・海路の連携強化による観光ネットワークの整備や、集約型都市構造に伴う道路ネットワークの見直し、災害時緊急輸送道路ネットワークの強化、高規格道路の整備推進等の方針が示されている。

１．持続可能な都市圏形成に向けた視点及び施策の方向性

（１）活気とにぎわい
・観光客が集中するエリアでの交通対策
・観光に使いやすい公共交通サービスの提供
・道路 ・ 鉄路 ・ 空路 ・ 海路の連携強化による観光ネットワークの整備
・需要が見込まれるエリアでの路線確保

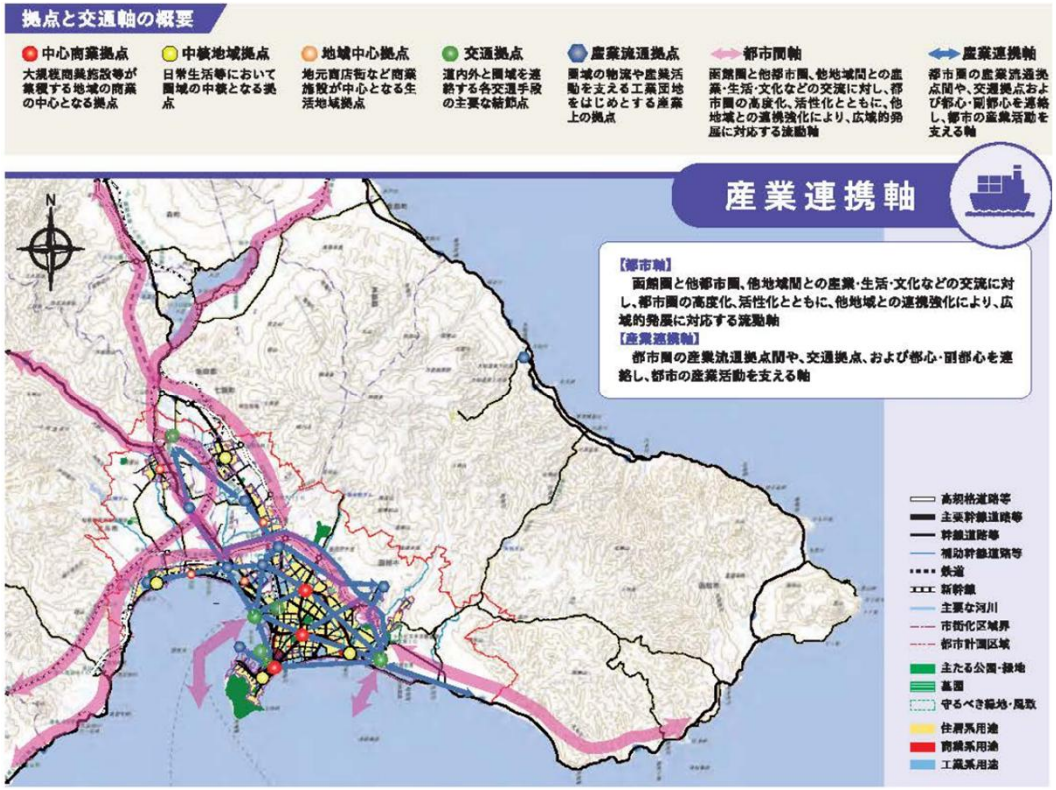
（２）快適なまち
・需要が集中する混雑エリアでの交通対策
・集約型都市構造に伴う道路ネットワークの見直し
・乗換利便性向上と路線確保に向けた新たな交通サービスの提供
・公共交通空白地帯や高齢者等移動困難者に対応した路線バスを補完する新たな交通サービスの導入

（３）安全・安心
・高齢者を中心とした交通対策
・迅速な避難に資する道路網の確保
・災害時緊急輸送道路ネットワークの強化
・道の駅の防災機能強化

２．拠点と交通軸の設定

・将来の函館圏における「拠点」と「軸」を設定し、それらを中心に施策を展開
・既存道路の活用と併せて高規格道路の整備を推進
・「産業連携軸」「観光軸」「生活軸」を見直し、新たに「防災軸」を設定

３．函館圏の将来像（産業連携軸）



資料：令和4年　函館圏の都市交通マスタープラン～函館圏パーソントリップ調査より～（本編・概要版）

（参考） 地域計画（新たな北海道総合開発計画の構成）

〇第9期北海道総合開発計画の主要施策として、「北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成」が示されている。

前文　第９期北海道総合開発計画の策定にあたって

第１章　計画策定の意義

第１節　北海道開発の経緯

1．北海道開発の歴史
2．第８期北海道総合開発計画の経緯

第２節　第９期北海道総合開発計画の意義

第２章　計画の目標

第１節　我が国を取り巻く状況

1．人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
2．気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
3．社会を変えるデジタル技術
4．国際情勢の変化

第２節　北海道の資源・特性

1．広大な大地
2．食料供給力
3．エネルギー・資源
4．自然環境・文化
5．地理的特性・寒冷地技術

第３節 2050年の北海道の将来像

1．国の課題解決のために果たすべき役割
2．将来像
3．将来像を支える社会基盤
4．将来像を実現するために進むべき方向性

第４節 第９期北海道総合開発計画の目標

目標１「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
目標２「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」

第３章　計画推進の基本方針

第１節 計画の期間

この計画の期間は、2024年度からおおむね10年間とする

第２節 計画の主要施策

第３節 計画の進め方

1．リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
2．計画の実効性を高めるための方策
（１）官民の垣根を越えた「共創」
（２）社会変革の鍵となるＤＸ・ＧＸの推進
（３）フロンティア精神の再発揮
（４）戦略的・計画的な社会資本整備
3．計画のマネジメント

第４章　計画の主要施策

第１節「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」に係る主要施策

1．食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2．観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3．地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4．地域の強みを活かした成長産業の形成
5．自然共生社会・循環型社会の形成
6．北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7．アイヌ文化の振興等

第２節「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」に係る主要施策

1．デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2．多様で豊かな地域社会の形成
3．北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4．生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり

資料：　第９期北海道総合開発計画の概要（北海道開発局）

6-2） 政策目標(案)の設定

	地域の課題	地域計画	政策目標(案)
【防災】	○国道5号には久根別川の洪水浸水想定区域が存在する一方、駒ヶ岳噴火時の避難経路である他、災害時の緊急輸送道路にも指定されており、救命・救助活動や緊急物資支援などの復旧･復興活動に寄与する道路機能の確保が課題。	○消防力の強化 ○災害対応力の充実強化 ○快適な暮らしを実現する生活環境の確保 ○災害時緊急輸送道路ネットワークの強化 ○迅速な避難に資する道路網の確保	災害発生時の復旧・復興活動を支える道路の機能確保
【医療】	○国道5号は第三次・第二次救急医療機関が集積する函館市への救急搬送ルートであり、速達性・安定性の確保が課題。	○救急・救助体制の強化 ○救急救命体制の充実強化 ○地域で支え合い健康で生き生きと暮らせる環境の充実	地域の暮らしを支える第三次・第二次救急医療機関への速達性・安定性の向上
【物流】	○国道5号は渡島地域の農水産物を道央圏や本州に輸送にする際の主要な物流ルートであり、速達性・定時性の確保が課題。	○農業生産基盤整備の推進 ○水産物の消費と販路の拡大 ○農林水産業の振興 ○企業の誘致促進 ○高速交通ネットワークを形成する北海道縦貫自動車道の整備促進 ○集約型都市構造に伴う道路ネットワークの見直し	地域の農水産業を支える輸送経路の速達性・定時性の向上
【観光】	○国道5号は主要観光ルートであり、速達性・定時性の確保が課題。	○観光資源の充実及び周遊観光の推進 ○滞在型観光の推進 ○外国人観光客の受入環境の整備 ○観光の価値を高める取組の強化、陸・海・空の交通ネットワークの充実 ○道路・鉄路・空路・海路の連携強化による観光ネットワークの整備 ○観光客が集中するエリアでの交通対策	観光促進に向けた観光ルートにおける周遊性の向上

道路の整備

WISENET 2050

地域安全保障のエッセンシャルネットワーク

経済成長・物流強化

低炭素で持続可能な道路の実現

観光立国の推進

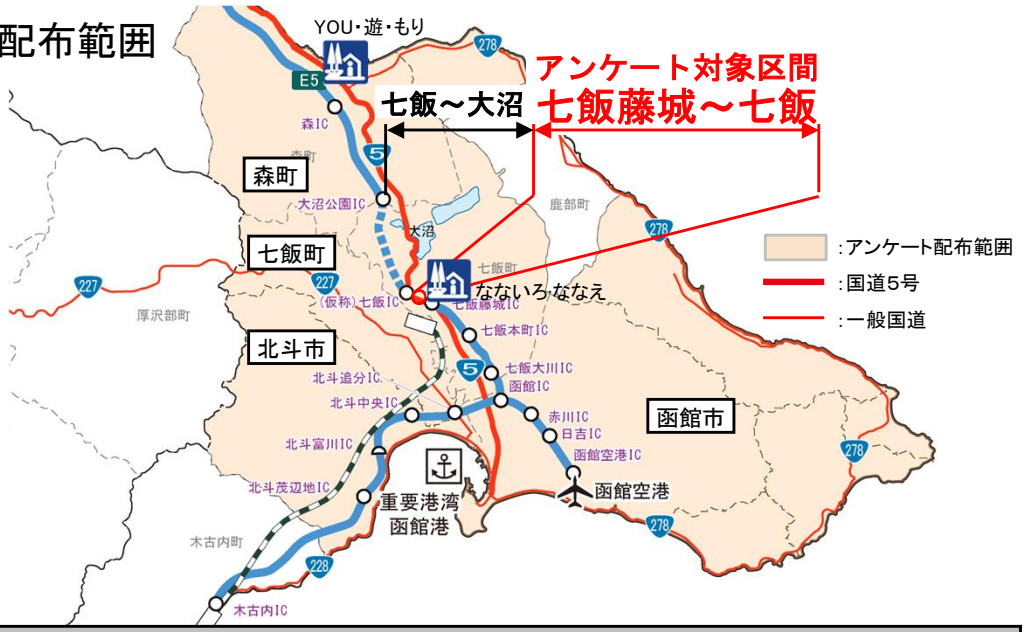
７．意見聴取方法（案）

7-1）意見聴取方法

■意見聴取の基本方針

○「地域の改善すべき課題」、「北海道縦貫自動車道 の調査中区間及び並行する国道５号の課題」に対し意見を伺う。

■アンケート配布範囲



■意見聴取の対象者と実施方法

対象者・実施方法				
アンケート	【地域住民及び道路利用者】	地域住民	北斗市（約5,100戸）、七飯町（約4,900戸）、森町（約4,600戸）、函館市（約5,300戸）※1	郵送配布調査（約20,000戸）
		道路利用者・観光客	４自治体の役場、 道の駅2箇所（道の駅 ななえ、道の駅YOU・遊・もり）	常設の留置きアンケート調査（計6箇所）
			行政機関ホームページ	Webアンケート調査 （日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語）
			観光施設等（道の駅 ななえ、函館空港）	インタビュー形式でのアンケート調査 （日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語）
ヒアリング	【沿線自治体及び各団体】	沿線自治体等	渡島総合振興局、函館市、北斗市、七飯町、森町	インタビュー形式でのヒアリング （5沿線自治体等、 26関係団体）
		関係団体※2	商工会議所（2箇所）、商工会（2箇所）、農業協同組合（4箇所）、 漁業協同組合（2箇所）、水産事業者、函館地区トラック協会、運送事業者、 観光協会、レンタカー協会、函館空港、旅行事業者、北海道バス協会、 バス事業者（2社）、消防本部・消防組合（4箇所）、病院（2箇所）	

※１：各自治体で統計上必要な標本数を算出し無作為抽出で配布　※２：関係団体のうち（　）がない団体は、１箇所であることを示す

7-2）意見聴取方法

■アンケートの調査項目と活用方針

アンケートの調査項目	アンケート結果の活用	備考
地域の課題	将来を見据えた改善すべき地域の課題について、回答者の考えを把握する。	第1回
道路の課題（必要な機能）	北海道縦貫自動車道の調査中区間（七飯藤城～七飯）及び並行する国道5号の現状について、回答者の考える課題を把握する。	
その他自由意見	その他、道路に関する課題や意見を幅広く聴取する。	
比較ルート帯（複数案）に対する意見	ルート帯、インターチェンジ選定にあたり、地域住民等が重視する視点、配慮すべき事項を把握する。	第2回
その他自由意見	その他、各区間に関する意見を幅広く聴取し、計画策定に反映する。	
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分野で整理し、分析する。	共通

■ヒアリングの調査項目と活用方針

ヒアリングの調査項目	ヒアリング結果の活用	備考
自治体や関係団体への意見聴取	・地域や道路の課題に関し、自治体や関係団体への意見聴取を行い、政策目標の設定に反映する。 ・自治体や関係団体との認識の整合性の確認をする。	共通

※黄色着色は、第1回地域意見聴取で実施する内容を示す

7-3）第1回意見聴取(案)

■第１回意見聴取における説明資料

①調査概要

➡ 本調査の趣旨・調査対象箇所について説明

②渡島地域の概況

➡ 地域の概況と課題について説明

北海道縦貫自動車道 （七飯藤城～七飯）における 道路計画に関する第１回アンケート調査

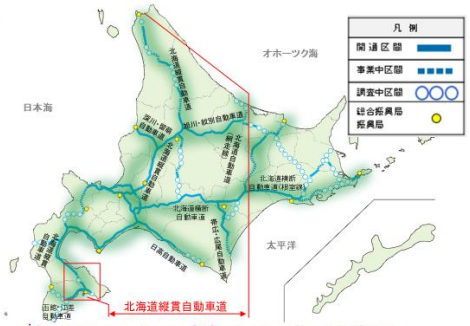
北海道縦貫自動車道は、函館市を起点として札幌市、旭川市等を経由し、稚内市へ至る高規格幹線道路です。

現在、七飯～大沼公園IC間について、国土交通省北海道開発局が整備を進めています。

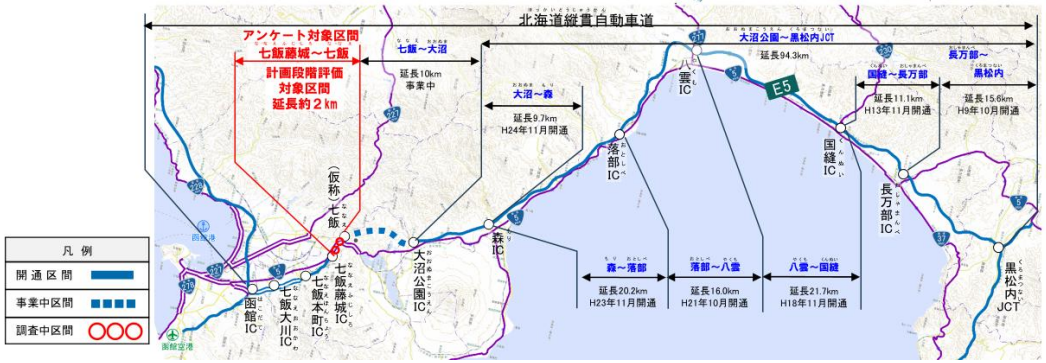
本アンケートは、北海道縦貫自動車道のうちの七飯藤城～七飯間の道路計画にあたり、計画づくりの初期段階から地域の皆様へ情報提供を行うとともに、広くご意見をお聞きし、それを計画に反映していくための取り組みとして実施するものです。

今回のアンケートでは、地域の皆様が日頃感じられている地域の課題や、必要な道路機能等についてお伺いした上で、対策案（構造）の選定にあたり、重視すべき点や配慮すべき点についてお伺いします。

アンケートにご協力いただきますよう、宜しくお願いいたします。



■このアンケートでは、七飯藤城～七飯間のことについてお伺いします。



渡島地方が目指す姿と概況

渡島地域における国道５号は、函館市を起点とし長万部町および小樽市を経て、札幌市に至る延長約２８２kmの主要幹線道路であり、道南圏と道央圏を連絡する重要な路線です。
その中で国道5号七飯藤城～七飯間は、空港・港湾をはじめ物流拠点や第三次・第二次救急医療機関が集積する函館市と、大沼公園や新幹線駅や道の駅など観光資源が存する渡島地域を結ぶ基幹ルートとして、農水産物流・観光・暮らし・救急搬送など様々な交通が利用する重要な路線です。
このような中、現在の地域や道路の状況から、地域の将来を見据えた改善すべき課題（道路に関して）は、以下のように考えられます。

地域・道路の状況から導かれる地域の課題（（案）		
	災害（防災）	○国道5号には久根別川の洪水浸水想定区域が存在する一方、駒ヶ岳噴火時の避難経路である他、災害時の緊急輸送道路にも指定されており救命・救助活動や緊急物資支援などの復旧･復興活動に寄与する道路機能の確保が課題。
	暮らし（医療）	○国道5号は第三次･第二次救急医療機関が集積する函館市への救急搬送ルートであり、速達性・安定性の確保が課題。
	農水産業支援（物流）	○国道5号は渡島地域の農水産物を道央圏や本州に輸送にする際の主要な物流ルートであり、速達性・定時性の確保が課題。
	観光支援（観光）	○国道5号は主要観光ルートであり、速達性・定時性の確保が課題。



7-3）第1回意見聴取(案)

■第１回意見聴取における説明資料

③将来を見据えた改善すべき課題

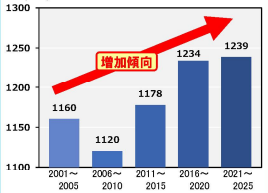
➡ 将来を見据えた改善すべき地域の課題の提示
対象路線の道路課題の提示

将来を見据えた改善すべき課題

■地域の課題は、以下のように考えられます。

災害に強い道路の確保

■渡島地域の年間降水量の推移(5カ年平均値)



資料：気象観測データ(気象庁)

■久根別川の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



出典：北海道渡島総合振興局

■国道5号には久根別側の洪水浸水区域が存在しており、大雨による通行止めリスクを抱えており、災害時の交通確保が課題

救急医療機関への速達性・安定性向上

■渡島地域における診療科目の状況

診療科目	函館市	七飯町	森町	北斗市
脳神経外科	9	1	1	0
心臓血管外科	6	0	0	0
循環器科	56	3	3	5
産婦人科	11	0	0	0
救急科	1	0	0	0

重篤な症状に対応できる病院は函館に集中

出典：北海道医療機能情報システム

■森町・八雲町・今金町から函館市への救急搬送件数



出典：函館開発建設部

■森町・八雲町・今金町・長万部町の要因別死亡率



■渡島地域では重篤な病状等に対応可能な病院が函館市に集中しており、心疾患の死亡率が高い当該地域は速達性・安定性向上が課題

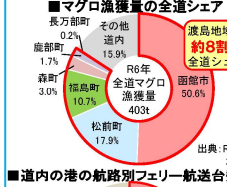
物流の速達性向上

■ニラの全道シェア



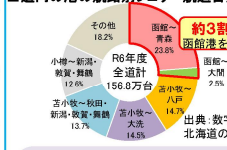
出典：【全道値】主要野菜作付実態調査(R6年産)
【市町村数値】新函館農業協同組合ヒアリング

■マグロ漁獲量の全道シェア



出典：R6北海道水産現勢

■道内の港の航路別フェリー航送台数割合



出典：数字で見る北海道の運輸

■渡島地域のニラやマグロなどの農水産物は道央などに輸送されるが、交通量が多く混雑による遅延が発生するなど速達性の低下が課題

観光の周遊性向上

■道南地域の観光入込客数推移



※ R2,R3は新型コロナに伴う移動制限(入国制限等)による低下

資料：北海道観光入込客数報告書

■渡島地方・檜山地方の観光資源と周遊観光ルート



■渡島地域は道内有数の観光施設を有しており、渡島・檜山地域への周遊観光も行われるが、観光地間の移動に時間を要しており速達性向上が課題

国道５号　七飯藤城～七飯間の道路課題

■国道5号　七飯藤城～七飯間の道路課題は、以下のように考えられます。

災害時の状況

■大雨による冠水状況(R7.8.19)



■根別川の浸水域が存在しており、大雨による洪水災害発生時は国道5号の交通寸断が懸念。

生活・物流交通の状況

■事故発生件数の推移



■事故類型別発生割合



資料：ITARDAデータ(H27-R6)

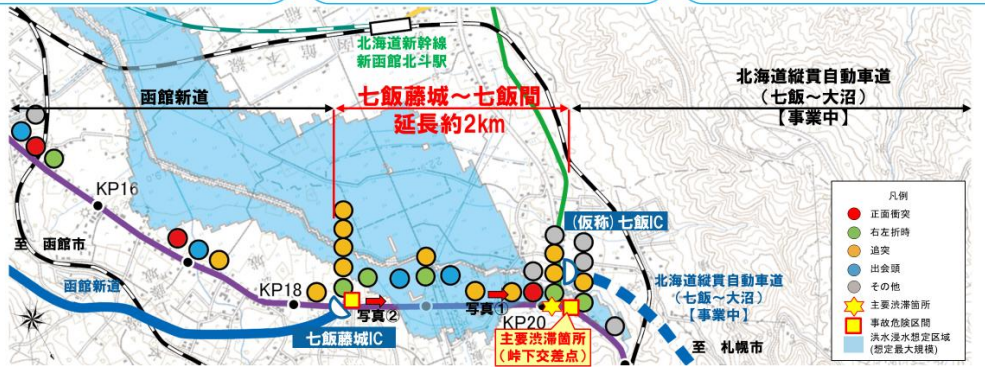
■当該区間での事故発生件数は増加傾向にあり、信号交差点前後における急ブレーキに起因する追突事故が多発している状況。

速達性・走行性の状況

■観光期の国道5号混雑状況



■連続する信号交差点において速度低下が発生。特に峠下交差点前後での速度低下が顕著であり、観光期には350mを超える渋滞が発生。



7-3）第1回意見聴取(案)

■質問･解答選択肢

問１　渡島地域の将来を見据えた地域の課題についてどう思いますか？

1-1　次のA～Dの課題について、「そう思う」～「そう思わない」の５段階で評価してください。
また、A～Dの優先順位についてお教えください。

項　目	優先順位	そう思う		やや そう思う		どちらとも いえない		あまりそう 思わない		そう 思わない
A　【災害】洪水などの大規模災害時に通行止めが懸念される		1		2		3		4		5
B　【医療】救急搬送時、信号交差点等での減速により患者への負担が大きく搬送に時間がかかる		1		2		3		4		5
C　【物流】輸送経路に渋滞が発生しやすい箇所があるため、速度が低下し輸送に時間がかかり、事故の危険性もある		1		2		3		4		5
D　【観光】観光時期の渋滞により移動に時間がかかり、地域住民や観光客が目的地に早く確実に移動することができない		1		2		3		4		5

回答は返信はがきに記入願います
※インターネットでも回答出来ます

1-2　上記A～D以外で、あなたが課題だとお考えのことがございましたら、ご自由にご記入ください。

回答は返信はがきに記入願います

問２　国道５号七飯藤城～七飯間に必要な道路はどのような道路だと思いますか？

2-1　次のA～Dの道路の役割について、「そう思う」～「そう思わない」の５段階で評価してください。
また、A～Dの優先順位についてお教えください。

項　目	優先順位	そう思う		やや そう思う		どちらとも いえない		あまりそう 思わない		そう 思わない
A　【災害】大規模災害時でも交通機能を確保することができる道路		1		2		3		4		5
B　【医療】医療拠点である函館市への移動時間を短縮し、安定性の高い道路		1		2		3		4		5
C　【物流】物流拠点まで混雑することなく走行できる速達性が高い道路		1		2		3		4		5
D　【観光】観光時期においても、地域住民や観光客が目的地に早く確実に移動することができる道路		1		2		3		4		5

回答は返信はがきに記入願います
※インターネットでも回答出来ます

2-2　上記A～D以外の道路の役割で、あなたが必要だとお考えのことがございましたら、ご自由にご記入ください。

回答は返信はがきに記入願います

問３　その他、北海道縦貫自動車道（七飯藤城～七飯）について、ご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。

回答は返信はがきに記入願います

7-3）第1回意見聴取(案)

・回答は同封の郵便はがきにご記入ください。
・回答用の郵便はがきは、切手を貼らずに最寄りの郵便ポストへ投函して下さい。
　なお投函は、令和●年●月●●日（●）までにお願いします。
・インターネットによる回答も実施可能になっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。
　※はがきによる回答は２名までとなっております。ご家族の中でご回答者様の他にお車を運転される方がいらっしゃる場合は、インターネットにてご回答いただけますと幸いです。
　北海道縦貫自動車道　（七飯藤城～七飯）道路計画に関する意見聴取　Ｗｅｂ回答用ページ
　URL：○○○○
　※函館開発建設部ホームページからもアクセス可能です。

QR
コード

アンケートの記入例

郵便はがき

料金受取人払

●●郵便局
承　認
000

0 4 0 - 0 0 8 4

函館市　大川町1-27
函館開発建設部　道路計画課

差出有効期間
令和●年●月
●日まで
（切手不要）

北海道縦貫自動車道（七飯藤城～七飯）
道路計画に関する意見募集係　行

見　本

はがきでは、ご家族2名まで御回答いただけます。
2名でご回答いただく場合は、表中の①②行にそれぞれ御回答を記載ください

■あなた自身のことについて（記入または該当する選択肢に○）

住所	1．北斗市　(2．七飯町)　3．森町　4．函館市 5．その他（[　　]都・道・府・県［　　]市・区・町・村）	
性別	①　(男性)・女性　（年齢：　　歳代）	
年齢	②　男性・(女性)　（年齢：　　歳代）	

■自動車を運転する頻度を教えてください(該当する1つに○)

①	(1.毎日)　2.週数回　3.月数回　4.ほとんど運転しない　5.運転しない	
②	1.毎日　2.週数回　3.月数回　(4.ほとんど運転しない)　5.運転しない	

■国道5号七飯蒜城七飯間の通行頻度を教えてください(該当する1つに○)

①	1.毎日　(2.週数回)　3.月数回　4.あまり利用しない　5.利用したことがない	
②	1.毎日　2.週数回　3.月数回　(4.あまり利用しない)　5.利用したことがない	

■国道5号七飯蒜城七飯間の主な通行目的を教えてください(該当する全てに○)

①	(1.通勤・通学)　2.通院　(3.家事・買物)　(4.仕事(営業・運送等) 5.観光・レジャー　6.その他（　　）	
②	1.通勤・通学　(2.通院)　(3.家事・買物)　4.仕事(営業・運送等) 5.観光・レジャー　6.その他（　　）	

北海道縦貫自動車道（七飯藤城～七飯）第1回アンケート 回答欄

2名で御回答頂く場合は、表中の①②行にそれぞれ御回答を記載ください

質問1．渡島地域の将来を見据えた地域課題について

1-1　以下のA～Dの課題について、該当するもの1つに○をつけてください。
　　また、A～Dの優先順位について、ご記入ください。

			そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
A[災害]	洪水など災害時の通行止め	①	1	(2)	3	4	5
		②	1	2	(3)	4	5
B[医療]	救急搬送時の減速による負担や遅れ	①	1	2	(3)	4	5
		②	(1)	2	3	4	5
C[物流]	渋滞による速度低下や事故の発生	①	1	(2)	3	4	5
		②	(1)	2	3	4	5
D[観光]	渋滞により早く確実に移動できない	①	1	2	3	(4)	5
		②	1	2	3	4	(5)

		1位	2位	3位	4位		1位	2位	3位	4位
優先順位	①	A	C	B	D	②	B	C	A	D

1-2　上記以外で課題とお考えのことがございましたら、ご自由にご記入ください。

①・・・・・・・・・・・・・・・・・　※記載者が分かるようにするため、文章前に回答者の番号を記載いただくようお願いいたします

質問2．七飯藤城～七飯間に必要な道路の役割について

2-1　以下のA～Dの道路の役割について、該当するもの1つに○をつけてください。
　　また、A～Dの優先順位について、ご記入ください。

			そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない
A[災害]	災害時でも通行可能な道路	①	(1)	2	3	4	5
		②	1	2	(3)	4	5
B[医療]	搬送時間の短縮と安定性の高い道路	①	1	(2)	3	4	5
		②	(1)	2	3	4	5
C[物流]	輸送時間の短縮と安全性の高い道路	①	1	2	(3)	4	5
		②	1	(2)	3	4	5
D[観光]	観光時にも早く確実に移動できる道路	①	1	2	3	4	(5)
		②	1	2	3	(4)	5

		1位	2位	3位	4位		1位	2位	3位	4位
優先順位	①	A	B	C	D	②	B	C	A	D

2-2　上記以外の道路機能で必要とお考えのことがございましたら、ご自由にご記入ください。

①・・・・・・・・・・・・・・・・・　※記載者が分かるようにするため、文章前に回答者の番号を記載いただくようお願いいたします
②・・・・・・・・・・・・・・・・・

質問3．その他のご意見

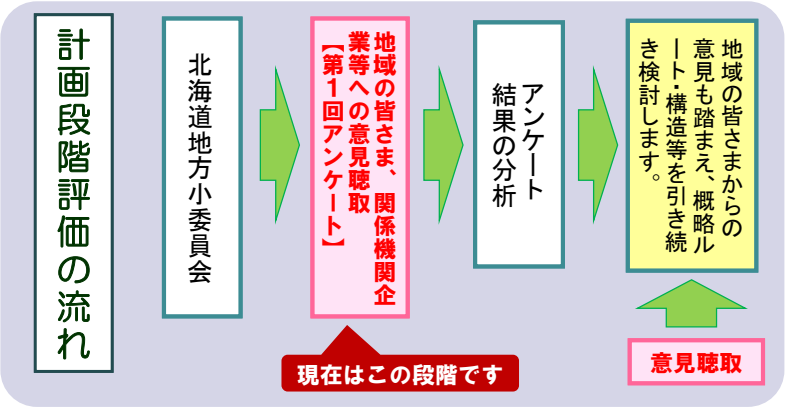
国道５号七飯蒜城～七飯間のご意見・ご要望がございましたら、ご自由にご記入ください。

②・・・・・・・・・・・・・・・・・　※記載者が分かるようにするため、文章前に回答者の番号を記載いただくようお願いいたします

■アンケートは「計画段階評価」審議の参考意見となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、計画段階評価の取組を導入しています。

これは、道路の整備方針を地域の声（地域の皆様、道路利用者、関係団体等）を聞きながら、第三者委員会によって審議するものです。



アンケートについてのお問い合わせ先

<調査主体>
北海道開発局　函館開発建設部　道路計画課

北海道縦貫自動車道　（七飯藤城～七飯）間
道路計画に関する意見聴取係

国土交通省

〒004-0084　函館市大川町１-２７
電話0138-42-7609



安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。

本調査は、渡島地域の道路計画について地域にお住まいの皆さまや道路利用者のご意見を広くお聞きすることを目的とするものです。
そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。
回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。
（法令により開示を求められた場合を除きます）